

平成 15 ~ 17 年度
岩見沢市公共工事の分析結果報告

岩見沢市入札等監理委員会

平成 18 年 7 月

はじめに

この報告書は、平成 15 年度から 17 年度の 3 ヶ年における岩見沢市の委託ならびに公共工事記録を分析した結果について報告するものである。分析結果は、年度ごとの分析と 3 ヶ年の変化について行う。年度ごとの分析では、次のような視点から集計結果を考察する。なお、本報告では、すべての分析は Microsoft Excel (Windows 版) を用いて行った。

- i. 工種別に集計し分析する
- ii. 最終契約額により集計し分析する
- iii. 市内・市外業者別に集計し分析する
- iv. 契約方法別に集計し分析する

本報告の構成は次のとおりである。

第 1～3 章では、平成 15 年～17 年度における年度ごとの上記 i～iv の項目について集計結果を示し考察する。

第 4 章では、3 ヶ年の落札率変化について考察する。

第 5 章では、全体の結果をまとめる。

付録では、各章におけるグラフの元となる集計表などをまとめる。

平成 18 年 7 月

岩見沢市入札等監理委員会

委員長 青山哲夫

委員 木村伸男

委員 畑中勝守

目 次

はじめに	1
第 1 章 平成 15 年度の分析.....	3
1.1 概要	3
1.2 工種による分析.....	3
1.3 最終契約額による分析.....	7
1.4 市内・市外業者による分析.....	10
1.5 契約方法による分析.....	13
1.6 平成 15 年度のまとめ.....	15
第 2 章 平成 16 年度の分析.....	17
2.1 概要	17
2.2 工種による分析.....	17
2.3 最終契約額による分析.....	21
2.4 市内・市外業者による分析.....	24
2.5 契約方法による分析.....	27
2.6 平成 16 年度のまとめ.....	29
第 3 章 平成 17 年度の分析.....	30
3.1 概要	30
3.2 工種による分析.....	30
3.3 最終契約額による分析.....	34
3.4 市内・市外業者による分析.....	37
3.5 契約方法による分析.....	39
3.6 平成 17 年度のまとめ.....	41
第 4 章 3 ヶ年の落札率変化の分析.....	42
4.1 全体の落札率の推移について.....	42
4.2 電子入札の効果について.....	42
4.3 金額と落札率の関係について.....	43
第 5 章 分析結果のまとめ.....	45
付 録	46
A 平均落札率と標本平均落札率の定義.....	46
B 参考表	47

第1章 平成15年度の分析

1.1 概要

平成15年度の委託発注ならびに工事発注の概要を表1-1に示す。委託発注は全体で133件、工事発注は415件であった。なお、表1-1の平均落札率は付録Aに示すとおり、当初契約額合計と予定価格合計の比で定義したものであり、それぞれの発注における標本平均落札率とは値が異なる。表1-2に落札率の基本統計量を示す。本報告では、これ以降、両者を平均落札率ならびに標本平均落札率として区別する（付録A参照）。

表より、委託発注ならびに工事発注の平均落札率ならびに標本平均落札率は、いずれも工事発注の落札率が高く、信頼区間の範囲からも平均の差は有意であることがわかる。すなわち、委託発注よりも工事発注の方が落札率の標本平均は高い。

表1-1 平成15年度委託・工事発注の概要

区分	件数 (件)	予定価格合計 (千円)	当初契約額合計 (千円)	平均落札率	最終契約額合計 (千円)
委託発注	133	567,457	442,887	78.0%	442,938
工事発注	415	5,519,766	4,788,629	86.8%	4,891,790

表1-2 平成15年度委託・工事発注における落札率の基本統計量

区分	件数(件)	標本平均	中央値	標準偏差	分散	最小	最大	95%信頼区間
委託発注	133	77.6%	79.0%	0.166094	0.027587	44.4%	100.0%	[74.8%,80.5%]
工事発注	415	86.0%	85.4%	0.068014	0.004626	71.9%	98.6%	[85.3%,86.7%]

1.2 工種による分析

工種による落札状況の違いを考察するため、工種別に発注実績を集計し比較する。以下に、委託発注と工事発注のそれぞれについて集計し、考察する。

(a) 委託発注

図1-1に工種別委託発注件数の度数分布図（ヒストグラム）を表示する。また、図1-2に工種別の委託発注における最終契約額合計を、図1-3に平均落札率を示す。なお、平均落札率は先のとおり標本平均落札率ではない（付録A参照）。また、それぞれのグラフの元となる表は、付録Bにまとめた。

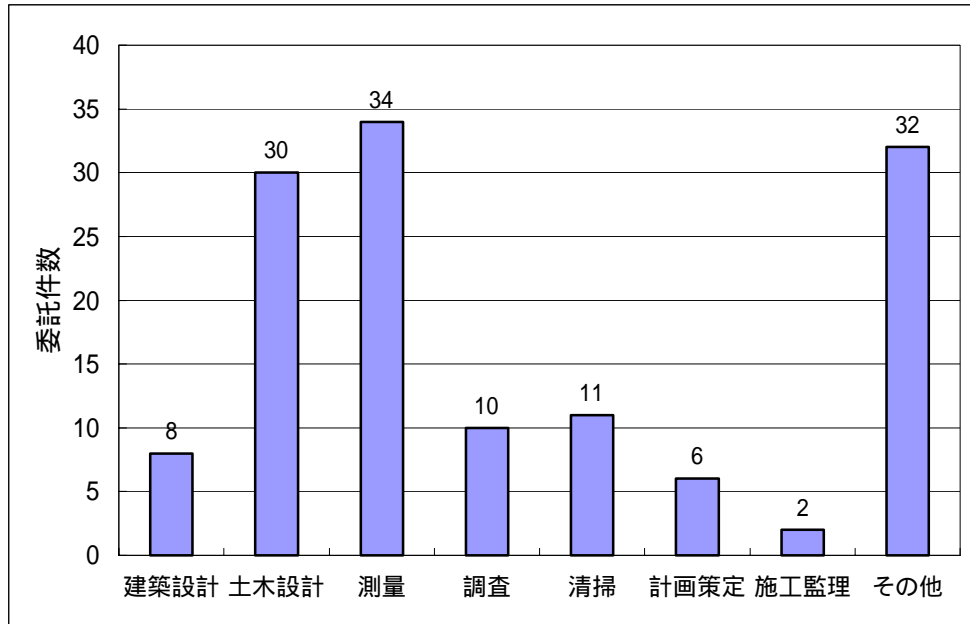


図 1 - 1 職種別委託発注件数の度数分布図

図 1 - 1 から、委託発注では測量，土木設計の委託発注件数が多いことがわかり，それぞれ全体の 3 割程度を占めていることがわかる。

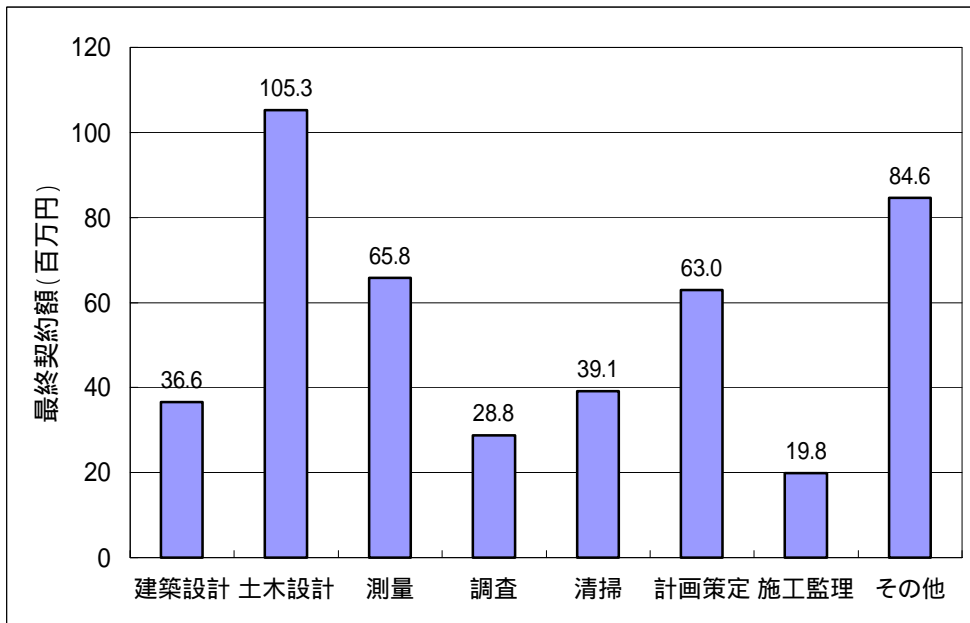


図 1 - 2 委託発注の職種別最終契約額合計分布図

図 1 - 2 からは、土木設計の最終契約額が高く、全体の 24% を占めていることがわかる。ま

た，図 1 - 1 との比較から，計画策定，施工監理，建築設計の最終契約額が平均的に高いことが分かる．

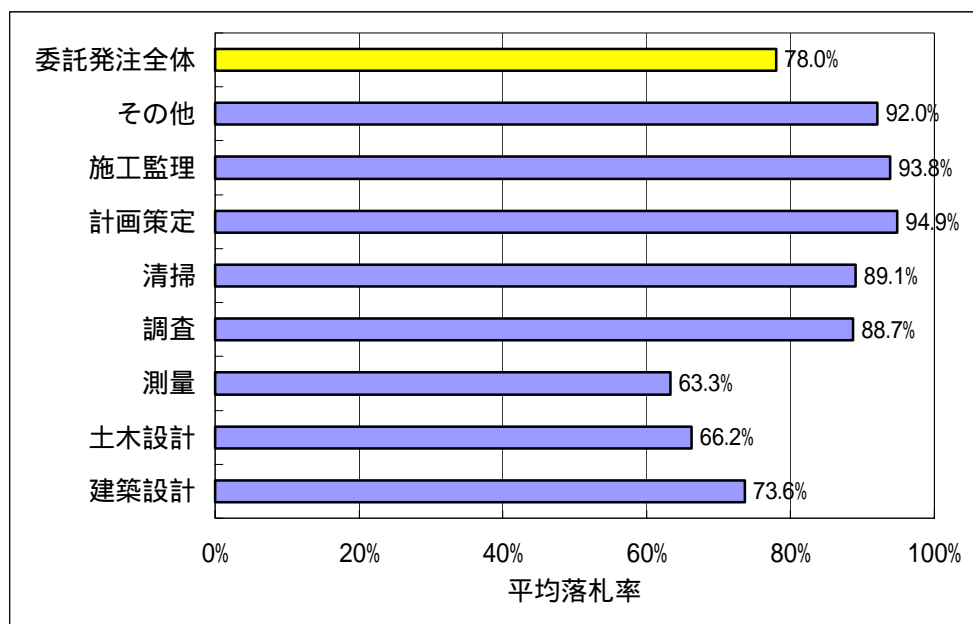


図 1 - 3 委託発注の工種別平均落札率

図 1 - 3 から，測量，土木設計の落札率が低い傾向にあり，計画策定や施工監理が高い傾向にある．

なお，仮説検定の結果によれば，例えば計画策定と土木設計の標本平均落札率はそれぞれ 95.0%，66.2% となり，両者の平均の差は有意であった．委託発注では，計画策定や施工管理の最終契約額合計も他より多いことから，平均落札率が高いことと合わせ，他より予算が節約できなかったと考えられなくもない．しかし，これらから談合の有無について考察することはできない．

(b) 工事発注

委託発注と同様に考察する．図 1 - 4 に工種別発注件数の度数分布を，図 1 - 5 に最終契約額合計の分布図を，図 1 - 6 に平均落札率をそれぞれ示す．

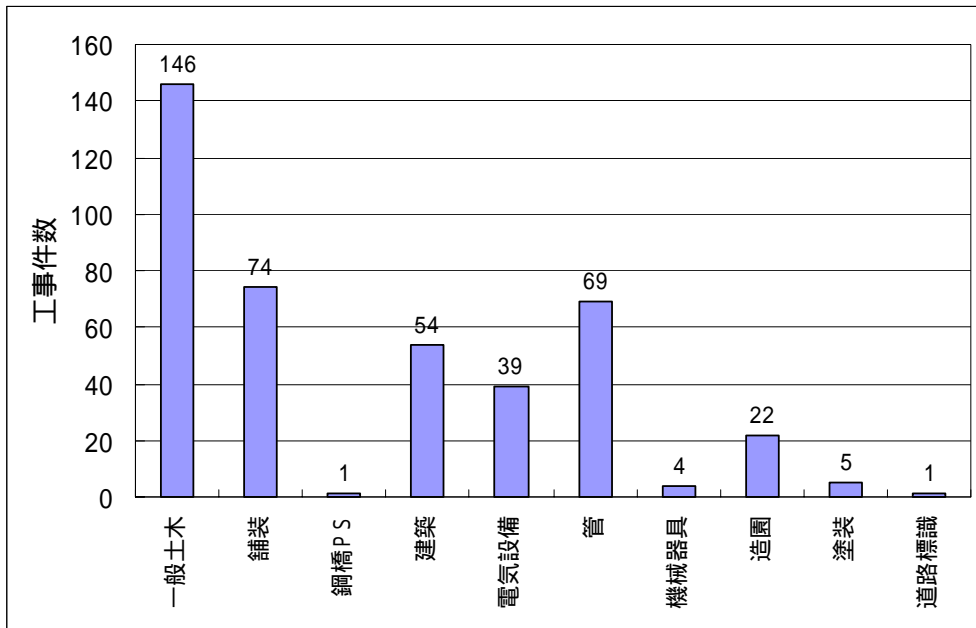


図 1 - 4 工種別工事発注件数の度数分布

図 1 - 4 から、一般土木の工事件数が最も多く、全体の 35%を占めていたことがわかる。また、舗装、管、建築の工事が多く、岩見沢市の公共工事の傾向がうかがえる。

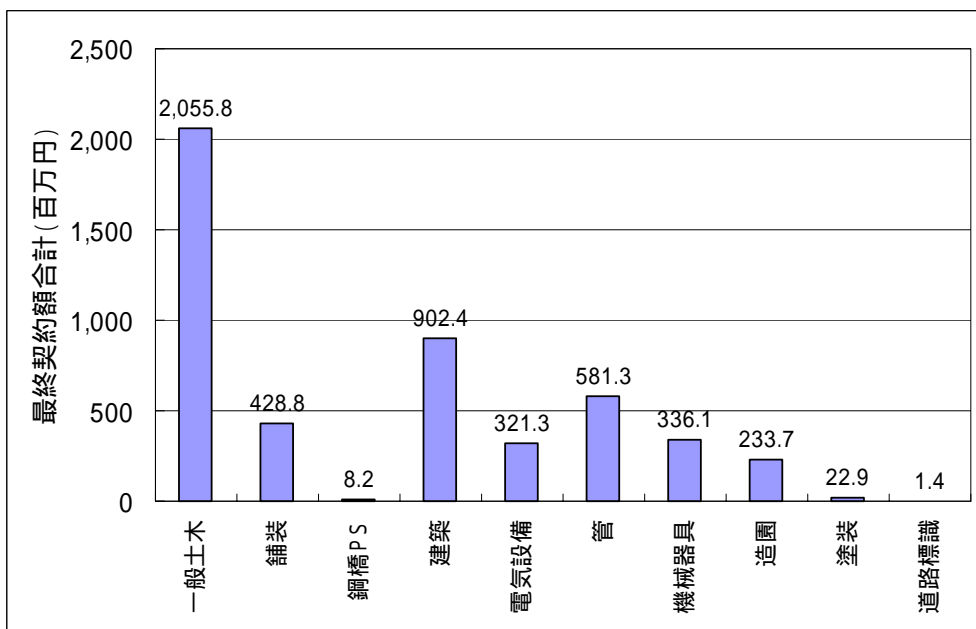


図 1 - 5 工事発注の工種別最終契約額合計分布図

図 1 - 5 から、最終契約金額の合計が高いものは件数同様一般土木であり、全体の 4 割以上

であった。一般土木工事が公共工事全体に占める割合が高いという岩見沢市の傾向がうかがえる。なお、最終契約額平均は機械器具が非常に高く、8,400万円程であった。

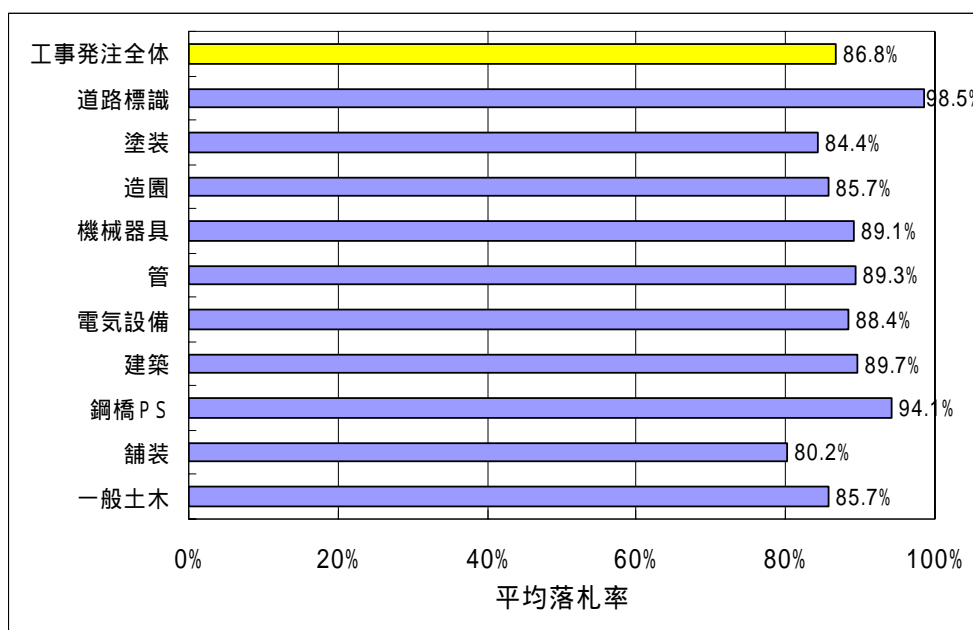


図 1 - 6 工事発注の工種別平均落札率

工種別平均落札率では、道路標識を除き全体的に 8 割～9 割の範囲であった。なお、図 1 - 6 の工事発注全体の平均落札率は表 1 - 2 に示した標本平均落札率(86.0%)よりも高くなっているが、特に考察すべきことはない。

なお、機械器具の最終契約額の平均が高いが、これは単価の高い工事であったという証左にすぎず、特に問題はない。道路標識の落札率は件数が 1 件であったことから平均ではない。道路標識の工事では市場価格から割り出した予定価格と落札価格の乖離が少ないため、落札率が高くなったと考えられる。以上からは、談合の有無に関して推測することはできないが、工事発注件数や予算金額の多い一般土木などにおける監視を続けることが望ましいと考えられる。

1.3 最終契約額による分析

最終契約額の違いによる落札状況の違いを考察するため、最終契約額の金額階級別に発注実績を集計し比較する。なお、委託発注では 100 万円単位で階級を決め、契約金額の幅が大きい工事発注では 500 万円単位で階級を設けた。

(a) 委託発注

図 1 - 7 に最終契約額階級別度数分布図を示す。また、図 1 - 8 に階級別の平均落札率を示す。なお、図 1 - 7 では市内・市外業者ごとの度数を示したが、市内・市外業者の違いは 1.4 節にまとめることとする。

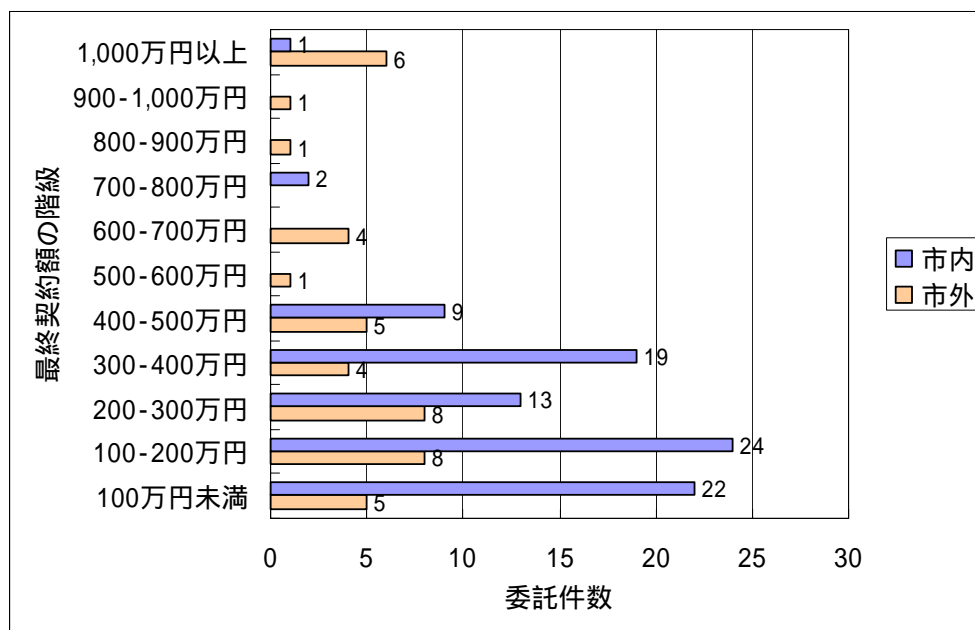


図 1 - 7 委託発注の最終契約額階級別度数分布図

図 1 - 7 から、岩見沢市の委託発注では、500 万円未満のものが大半であることがわかる。また、この階級では市内業者が落札する傾向が高いものの、500 万円以上の発注では市外業者が多いという傾向がうかがえる。図 1 - 8 では、500 万円未満の階級における平均落札率が低く、500 万円以上の平均落札率が高い傾向に見える。委託発注では、平均契約額が高額な計画策定や施工管理の落札率が高かったことと関連した結果であると考えられる。

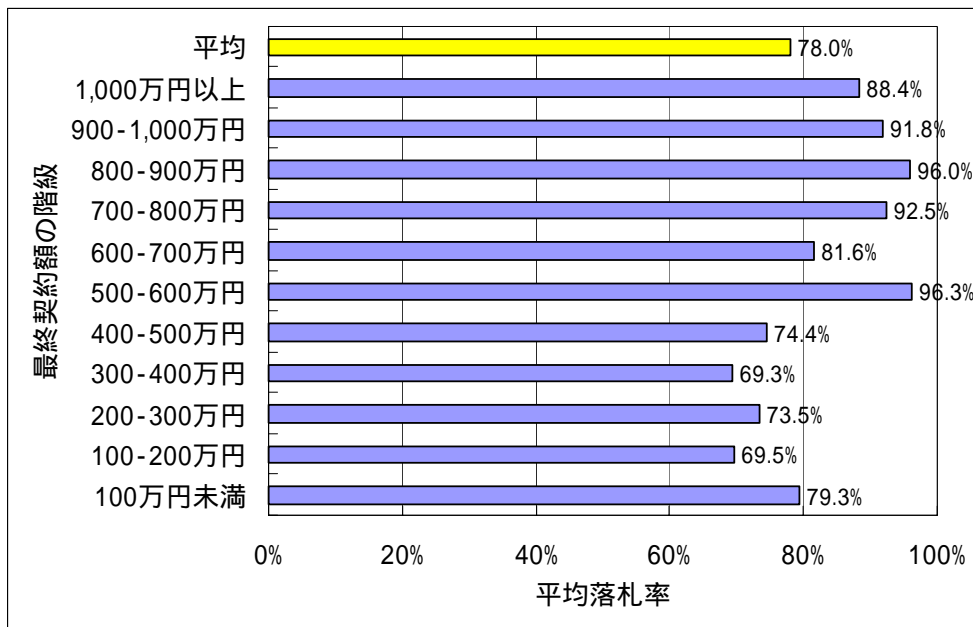


図 1 - 8 委託発注の最終契約額階級別・平均落札率の分布

(b) 工事発注

図 1 - 9 に工事発注の最終契約額階級別度数分布図を示す。また、図 1 - 10 に階級別の平均落札率を示す。

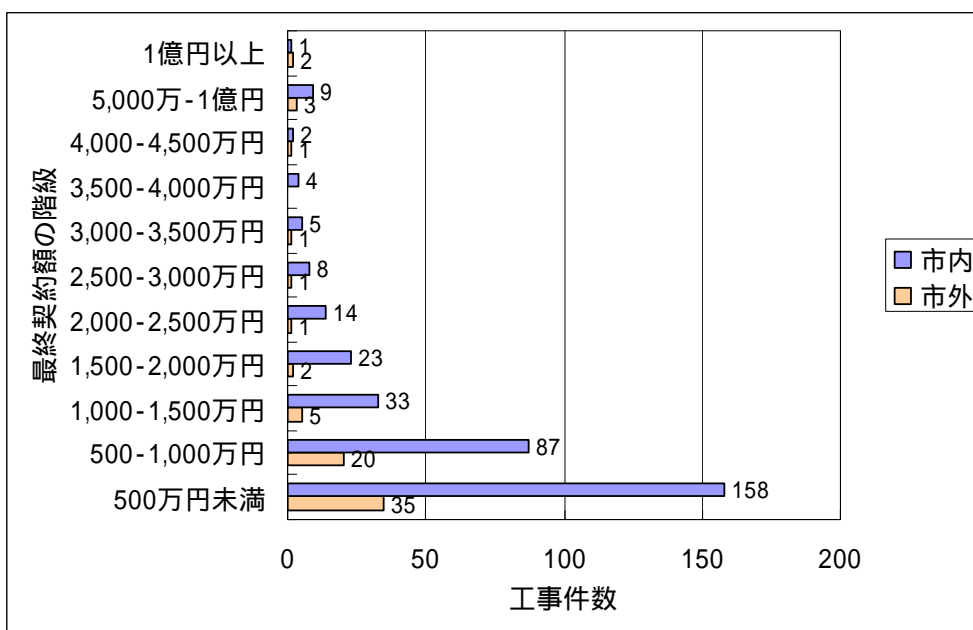


図 1 - 9 工事発注の最終契約額階級別度数分布図

図 1 - 9 から，工事件数は 1,000 万円未満の工事が圧倒的に多く，岩見沢市の公共工事の状況がうかがえる．市内業者が圧倒的に多く落札しており 83% を占めている．

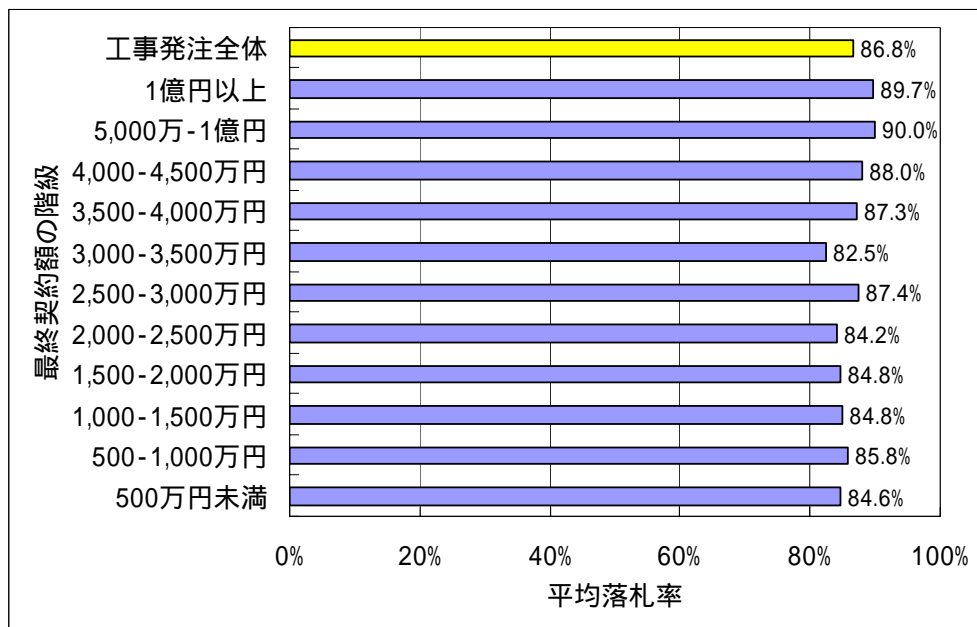


図 1 - 10 工事発注の最終契約額階級別・平均落札率の分布

平均落札率（図 1 - 10）では，すべてが 80% 以上であり，金額階級による偏りは少ないように思われる（有意差検定も必要であると思われるが，本報告では割愛する）．最終契約額の階級による偏りが少ないということは，この視点から談合の有無を判断することはできないと考えられる．

1.4 市内・市外業者による分析

市内・市外業者の落札状況の違いを考察するため，落札者住所区別に発注実績を集計し比較する．

(a) 委託発注

図 1 - 11 に最終契約額の割合の図を示す．また，図 1 - 12 に平均落札率を示す．なお，度数分布は図 1 - 7 に示した．

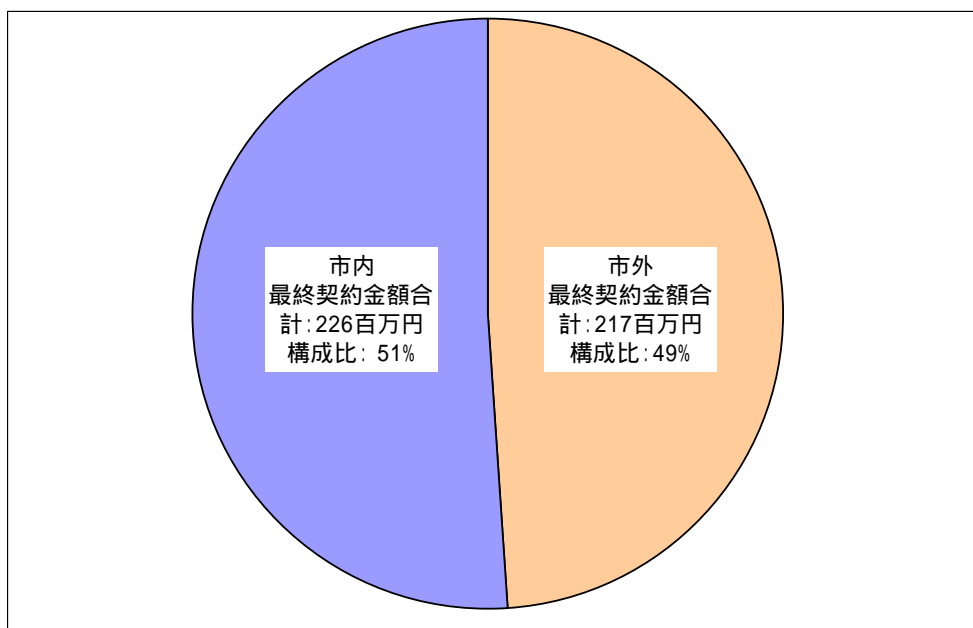


図 1 - 11 委託発注における最終契約額の市外・市内業者の割合

図 1 - 11 から、平成 15 年度は市内業者が市外業者をわずかに上回る結果となったが、拮抗している。したがって、特に市内業者が優遇されているという印象はない。一方、平均落札率（図 1 - 12）は、市内・市外の差が 10% 以上であったが、有意ではないと結論付けられた。以上からは、市内・市外業者の落札傾向に差はなく、談合有無の判断はできない。

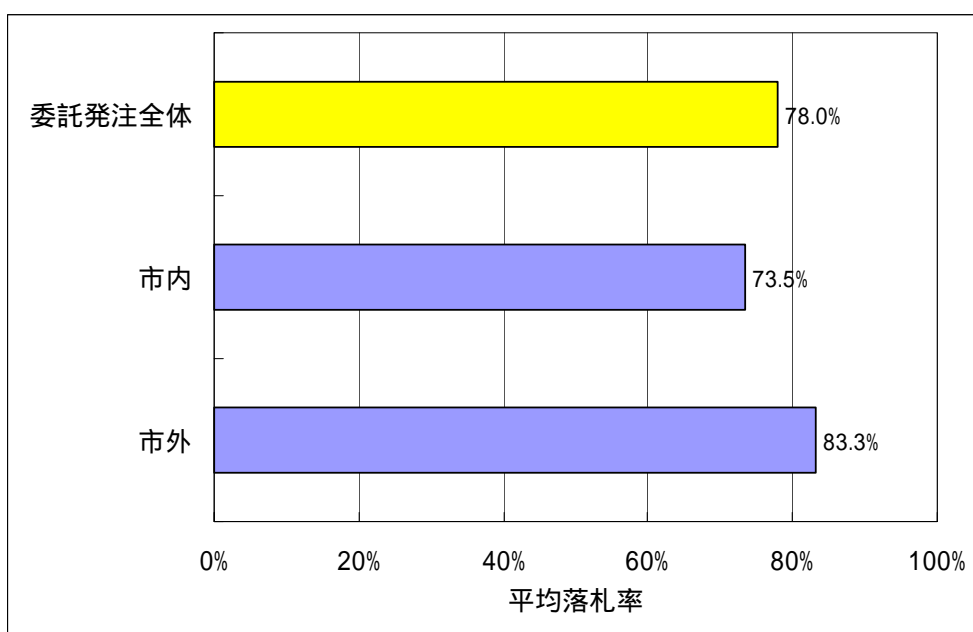


図 1 - 12 委託発注の市外・市内業者別平均落札率

(b) 工事発注

図 1 - 13 に最終契約額の割合の図を示す。また、図 1 - 14 に平均落札率を示す。なお、度数分布は図 1 - 9 に示した。

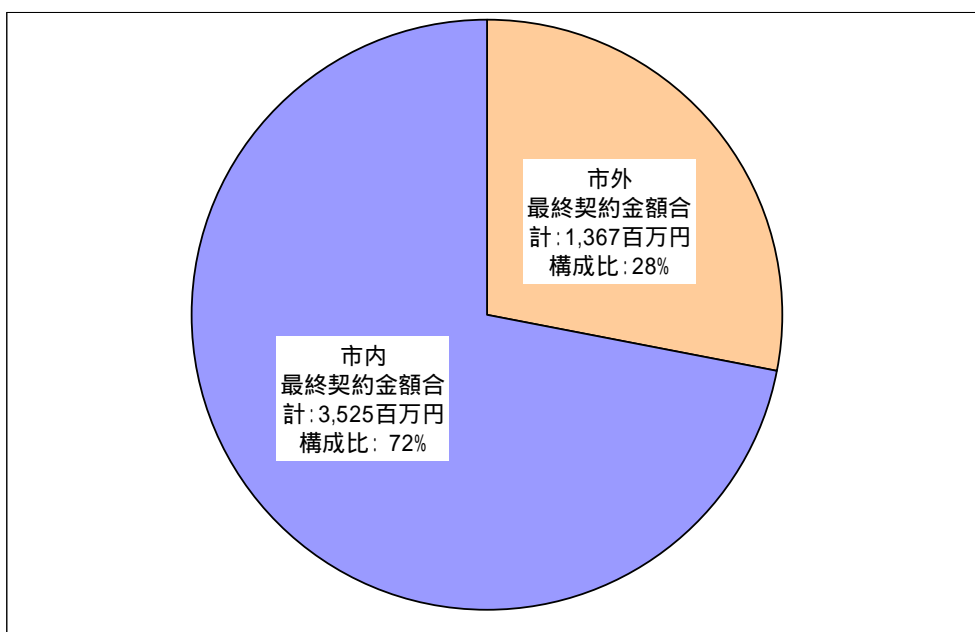


図 1 - 13 工事発注における最終契約額の市外・市内業者の割合

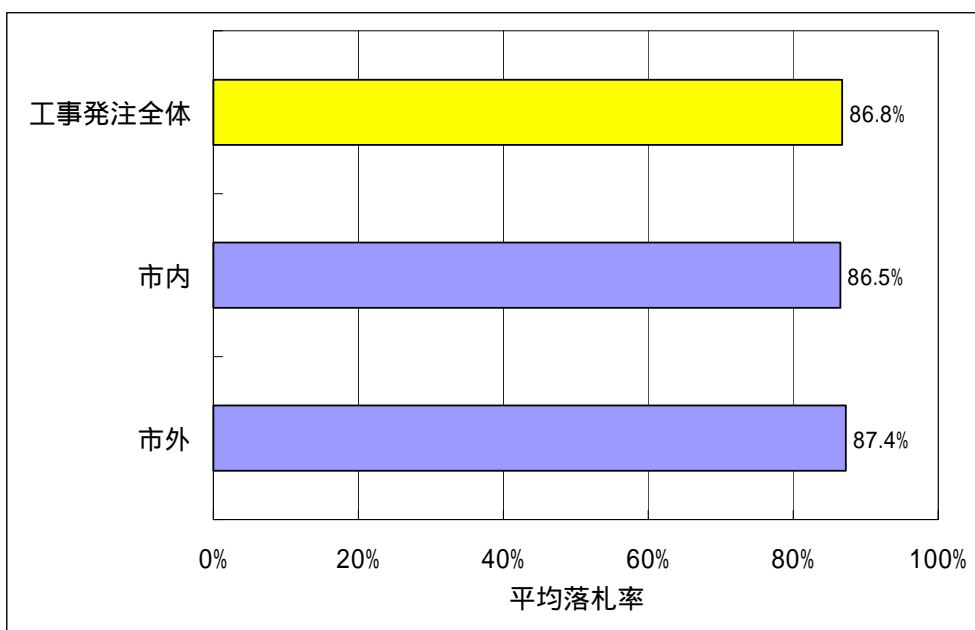


図 1 - 14 工事発注の市外・市内業者別平均落札率

工事発注に関しては、委託発注とは異なり、市内業者の割合が7割を超えており(図1-13)、市内業者が受注した工事契約額が高いことがわかる。また、図1-14のとおり、市内・市外の平均落札率の差は非常に小さい。しかし、有意差検定を行ったところ、標本平均落札率はそれぞれ市外が84.4%、市内が86.4%であり差は小さいものの有意であるとなった。したがって市内業者の落札率の方が低い傾向にあるといえる。理由に関する推測は材料不足でありできないが、落札率だけで談合の有無を議論することは無意味である。ここでは、標本平均落札率の差が有意であったということである。

1.5 契約方法による分析

契約方法の違いによる落札状況の違いを考察するため、契約方法別に発注実績を集計し比較する。特に電子入札の導入などの影響について考察する。

(a) 委託発注

委託発注では、指名競争入札が133件中125件(94%)、最終契約額も4億4,300万円で4億1,000万円(92%)と圧倒的に多い。このため、度数や契約額での考察は割愛し、平均落札率のみを議論する。図1-15に平均落札率を示す。

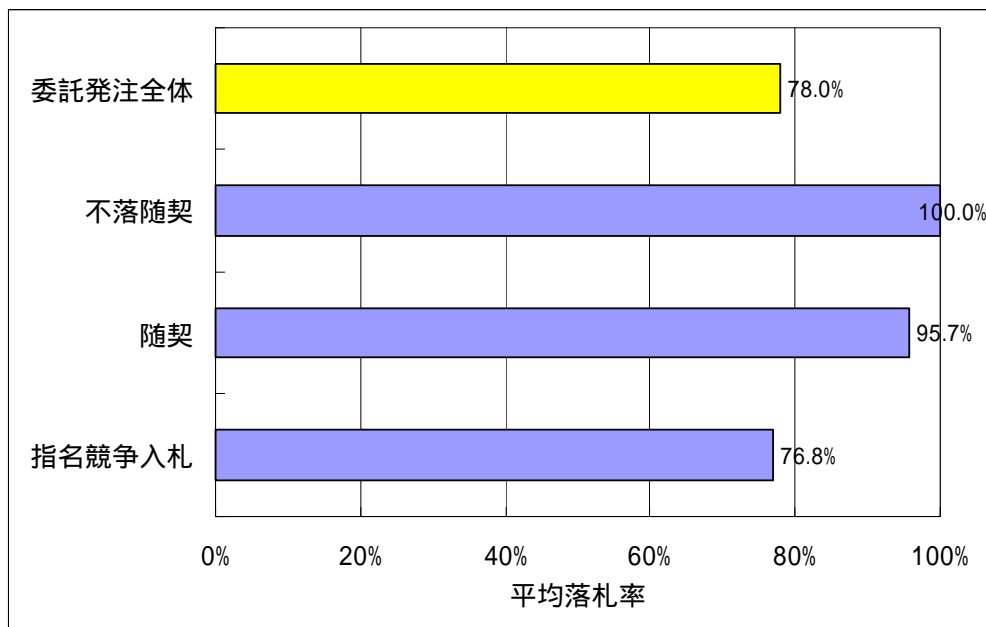


図1-15 委託発注の契約方法別平均落札率

委託発注では、契約方法が 3 種しかなく、指名競争入札の落札率が低い。しかし、度数が著しく異なるため平均の差は意味を持たないと考えられる。

(b) 工事発注

図 1 - 16 に契約方法別度数分布を示す。また、図 1 - 17 に契約方法別の最終契約額合計を、図 1 - 18 に平均落札率を示す。

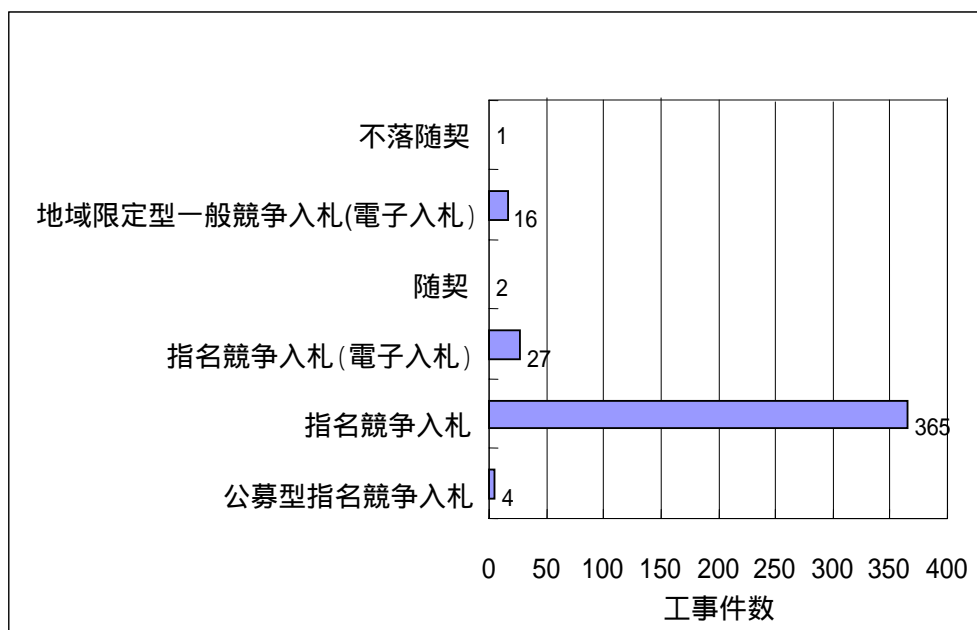


図 1 - 16 工事発注の契約方法別度数

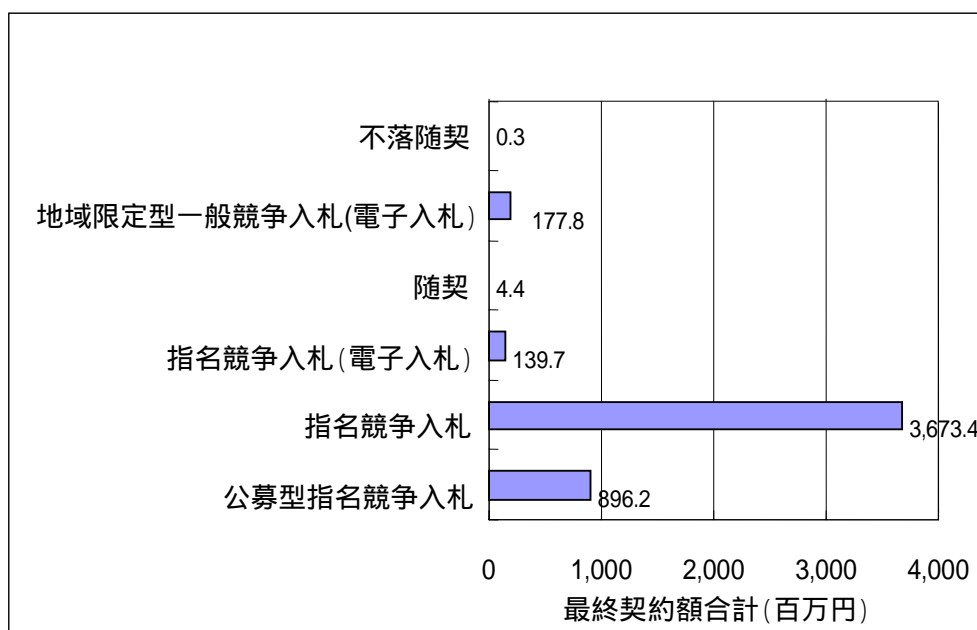


図 1 - 17 工事発注の契約方法別・最終契約額合計

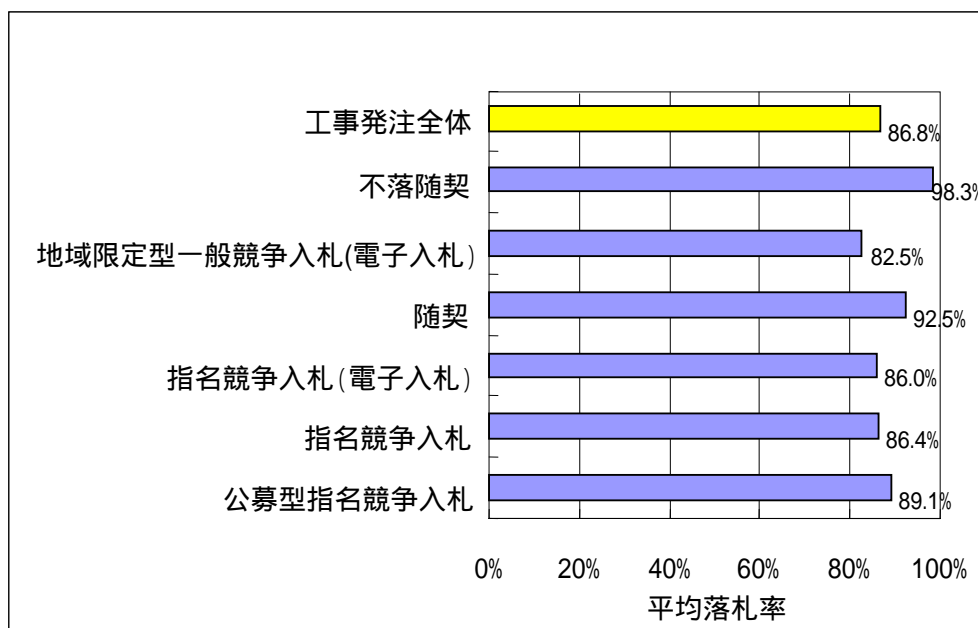


図 1 - 18 工事発注の契約方法別平均落札率

図 1 - 16 から，工事件数は指名競争入札がもっとも多く，全体の 8 割を占めていることがわかる．しかし，最終契約額合計では指名競争入札だけでなく，公募型指名競争入札も金額が大きいことがわかる（図 1 - 17）．注目する電子入札は，平成 15 年度は件数，金額とも少ない．平均落札率（図 1 - 18）はすべてが 80% を超えている状況である．なお，ここでは平均の有意差検定をおこなっていない．これは，件数の差が先の委託発注同様，著しいためである．しかし，電子入札が比較的低い値である傾向が見られることから，電子入札の導入を進めることは効果が期待できるものと推測される．いずれにしろ談合有無の判定はできないが，一般的に電子入札が推奨されている昨今の状況にかんがみ，岩見沢市においても電子入札を利用することは好ましい方向性であると考えられる．

1.6 平成 15 年度のまとめ

平成 15 年度の委託発注ならびに工事発注について，それぞれの視点から落札傾向について分析を試みた．以下にその結果をまとめる．

- 委託発注では，工種による件数，契約額に差があるものの，落札率には目立った特徴はない．
- 工事発注では，工種による差，市内・市外業者による差，契約方法の違いによる差が度数，契約額，落札率ともに見られた．
- 委託・工事発注とも，以上の分析から談合の有無を判断することはできない．しかし

ながら、本報告のように発注の状況を分析することは、公共工事における傾向を監視するという意味で必要であると考える。

なお、図1-19に、工事発注における落札率の度数分布を示す。平成15年度は90-95%の落札件数が多いことがわかる。

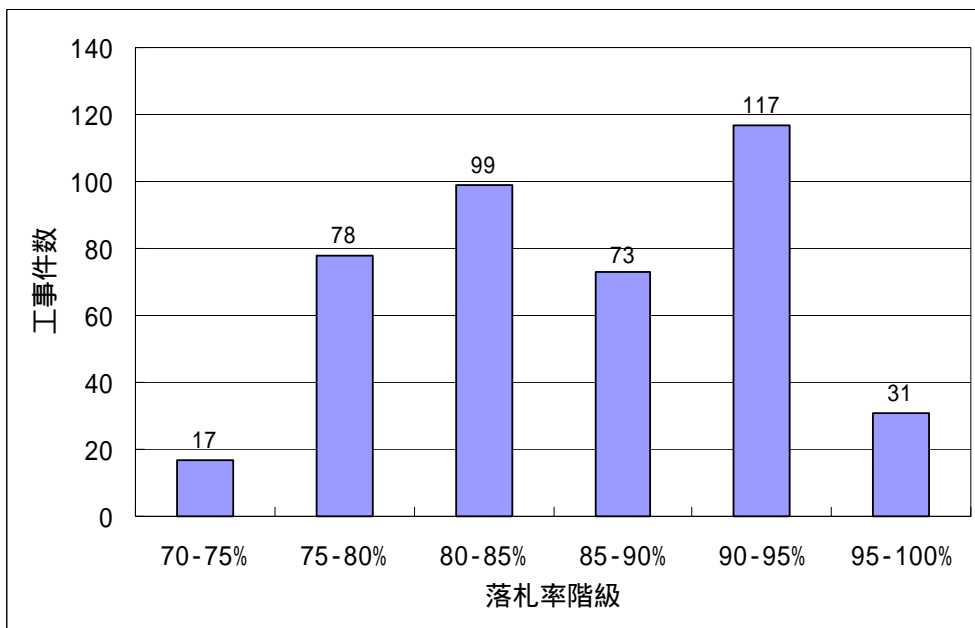


図1-19 工事発注の落札率階級ごとの度数分布

第2章 平成16年度の分析

2.1 概要

平成15年度と同様の分析を行う。平成16年度の委託発注ならびに工事発注の概要を表2-1に示す。委託発注は全体で100件、工事発注は317件であった。全体的には平成15年度より少ないものの、ほぼ同様の傾向であると考えられる。表2-2に落札率の基本統計量を示す。

表より、委託発注ならびに工事発注の平均落札率ならびに標本平均落札率は、いずれも工事発注の落札率が高く、信頼区間の範囲からも平均の差は有意であることがわかる。すなわち、委託発注よりも工事発注の方が落札率の標本平均は高く、平成15年度と同傾向である。

表2-1 平成16年度委託・工事発注の概要

区分	件数(件)	予定価格合計(千円)	当初契約額合計(千円)	平均落札率	最終契約額合計(千円)
委託発注	100	513,097	423,288	82.5%	435,073
工事発注	317	8,259,164	7,591,017	91.9%	7,668,084

表2-2 平成16年度委託・工事発注における落札率の基本統計量

区分	件数(件)	標本平均	中央値	標準偏差	分散	最小	最大	95%信頼区間
委託発注	100	82.9%	84.9%	0.111095	0.012342	54.9%	99.8%	[80.7%,85.1%]
工事発注	317	87.7%	89.8%	0.075885	0.005759	69.5%	100.0%	[86.8%,88.5%]

2.2 工種による分析

平成16年度の工種による落札状況の違いは以下のとおりである。

(a) 委託発注

図2-1に工種別委託発注件数の度数分布図を表示する。また、図2-2に工種別の委託発注における最終契約額合計を、図2-3に平均落札率を示す。

図2-1から、委託発注では測量、土木設計の委託発注件数が多いことがわかり、この傾向は平成15年度と同様である。

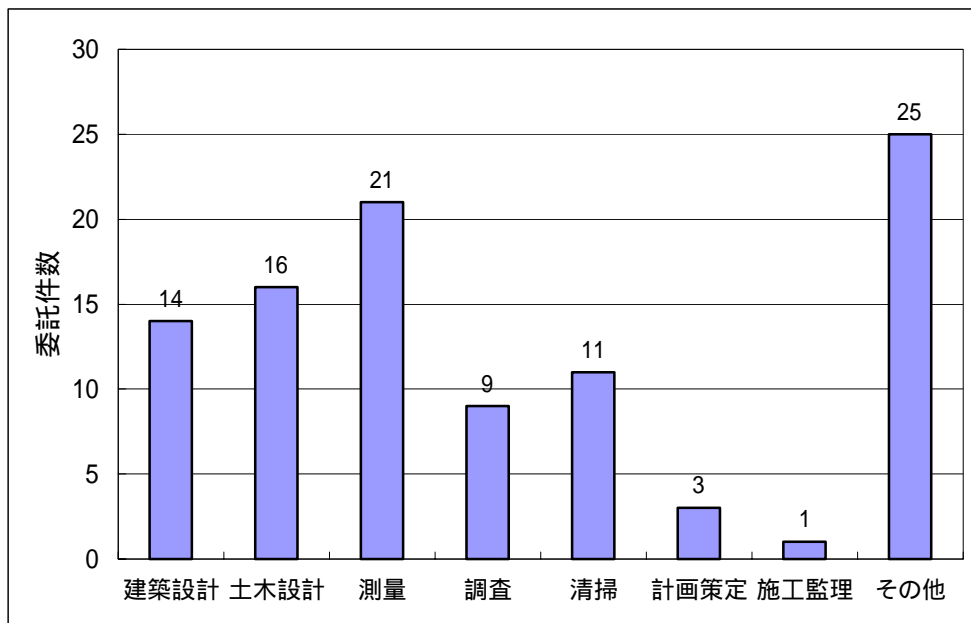


図 2 - 1 工種別委託発注件数の度数分布図

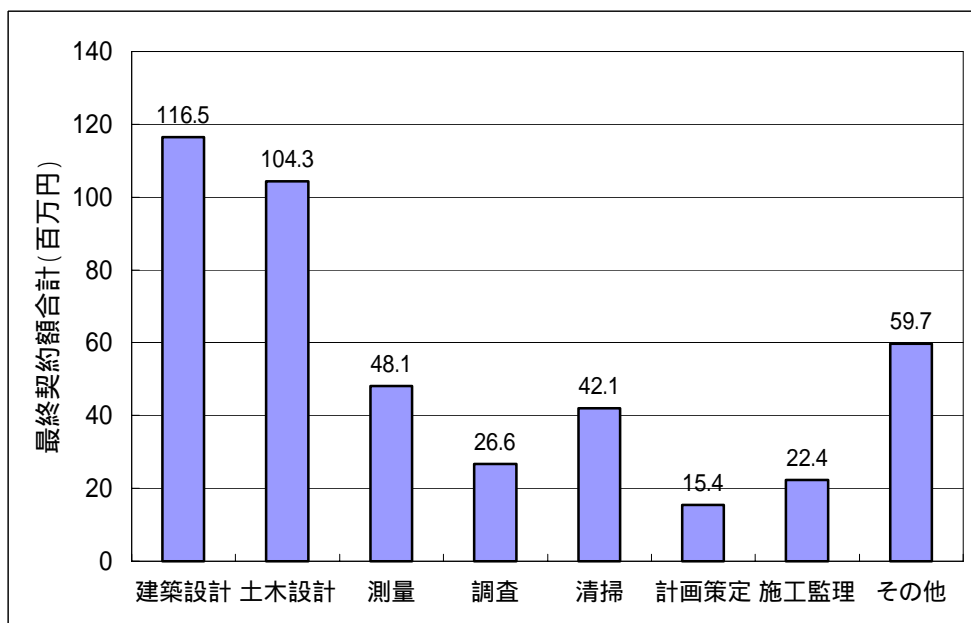


図 2 - 2 委託発注の工種別最終契約額合計分布図

図 2 - 2 から、建築設計の最終契約額が高く、全体の 27%を占めていることがわかる。平成 15 年度との違いは、建築設計が倍増したこと、計画策定は 4 分の 1 程度になったことなどである。いずれもその年度の事情によるものであり、決まった傾向は見られない。

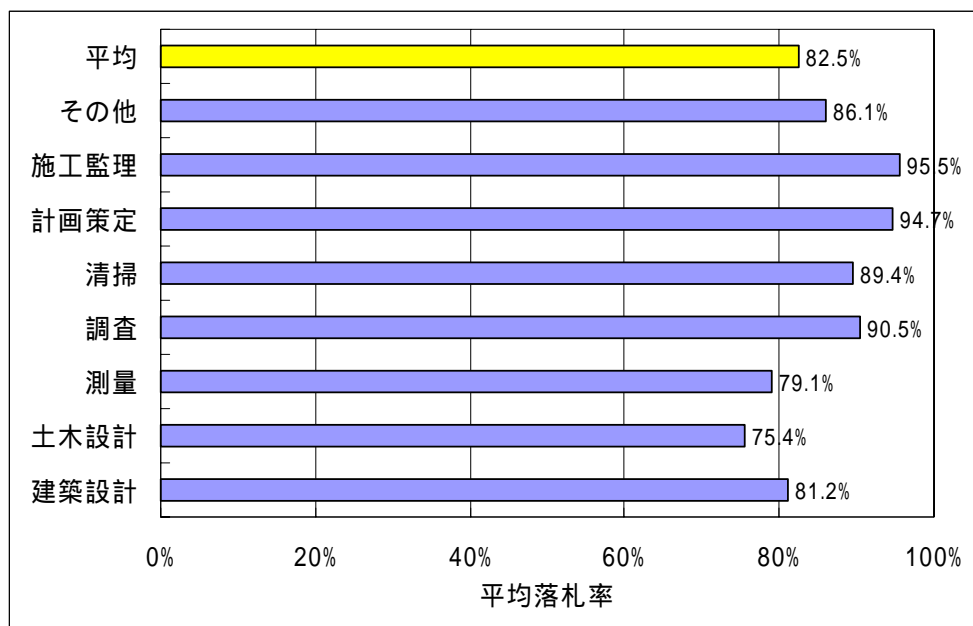


図 2 - 3 委託発注の職種別平均落札率

図 2 - 3 から、測量、土木設計の落札率が低い傾向にあり、80%を下回っている。計画策定や施工監理が高い傾向にあり、これらは平成 15 年度の状況と変わらない。

(b) 工事発注

図 2 - 4 に職種別発注件数の度数分布を、図 2 - 5 に最終契約額合計の分布図を、図 2 - 6 に平均落札率をそれぞれ示す。

図 2 - 4 から、一般土木の工事件数が最も多く、全体の 43%を占めていたことがわかる。これは平成 15 年度が 35%であったのに対し増えたことになる。

図 2 - 5 から、最終契約金額の合計が高いものは件数同様一般土木であり、全体の 37%であった。一般土木工事が公共工事全体に占める割合が高いという岩見沢市の傾向がうかがえる。この傾向は平成 15 年度と同様である。

図 2 - 6 の職種別平均落札率では、舗装が 80%を下回るものの、全体的に 8 割～9 割の範囲であった。一般土木は平成 15 年度が 85.7%であったのに対し 91.7%と増えた。標本平均の有意差検定の結果も有意であるとなったことから、平成 16 年度は一般土木の落札傾向が変化したと考える。しかしこの理由は、予定価格が実勢価格に近づいたためか、業者の見積もりが予定価格に近づいていたことに起因するものかは定かではない。

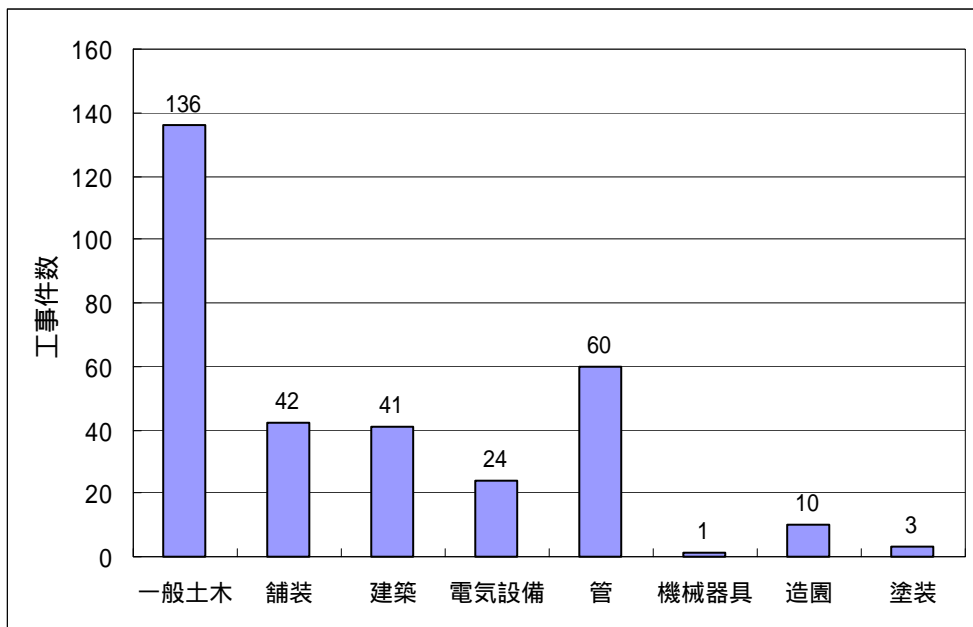


図 2 - 4 工種別工事発注件数の度数分布

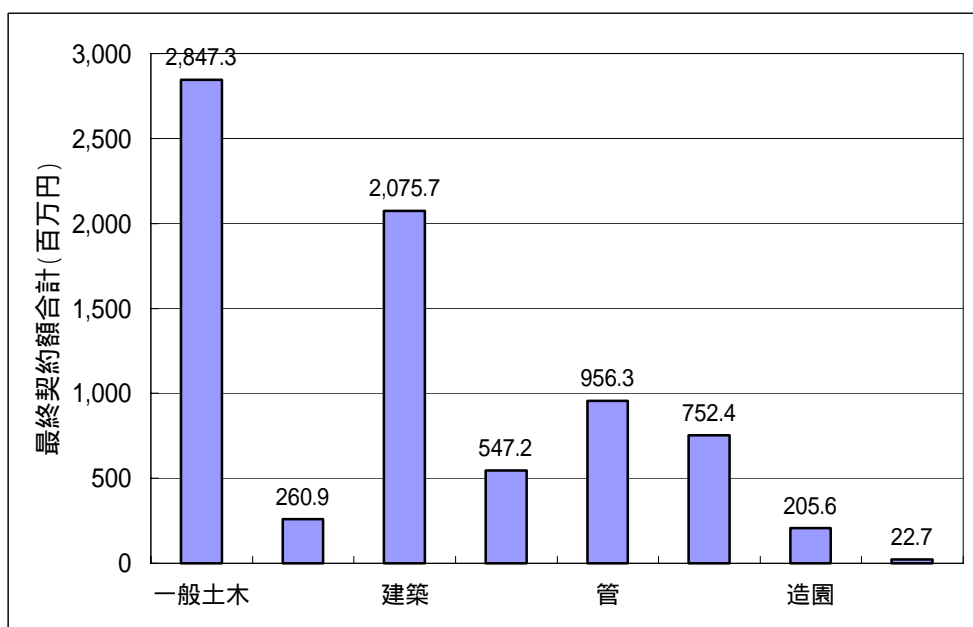


図 2 - 5 工事発注の工種別最終契約額合計分布図

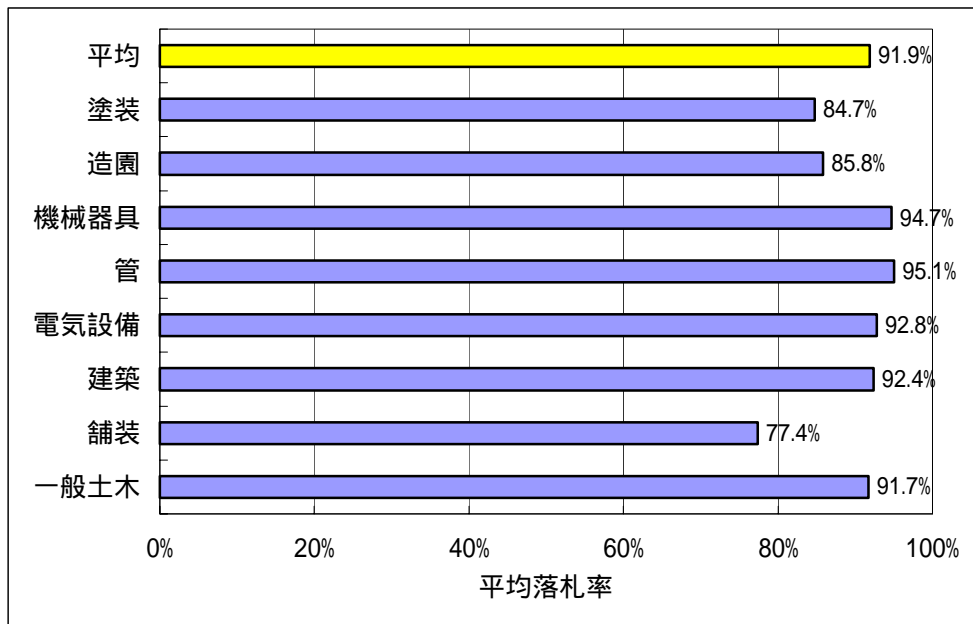


図 2 - 6 工事発注の工種別平均落札率

以上からは、談合の有無に関して推測することはできないが、工事発注件数や予算金額の多い一般土木などの監視を続けることが望ましいと考えられ、平成 15 年度と同様の傾向が見られた。

2.3 最終契約額による分析

最終契約額の違いによる落札状況の違いを考察する。なお、契約額合計の階級は平成 15 年度のものと同じである。

(a) 委託発注

図 2 - 7 に最終契約額階級別度数分布図を示す。また、図 2 - 8 に階級別の平均落札率を示す。

図 2 - 7 から、岩見沢市の委託発注では 500 万円未満のものが大半であることがわかり、この傾向は平成 15 年度と同様である。また、高額な契約になるほど市外業者の落札する傾向が高く、平成 15 年度と同様の傾向であった。なお、市内業者の落札件数は全体の 63% であった。

図 2 - 8 では、500～700 万円未満の階級における平均落札率が低い傾向に見える。なお、委託発注の落札率は平成 15 年度よりも上がっている。この差は有意であることから、落札率が高くなったといえる。委託発注の内容がどのように変化したかを考察することが必要である。

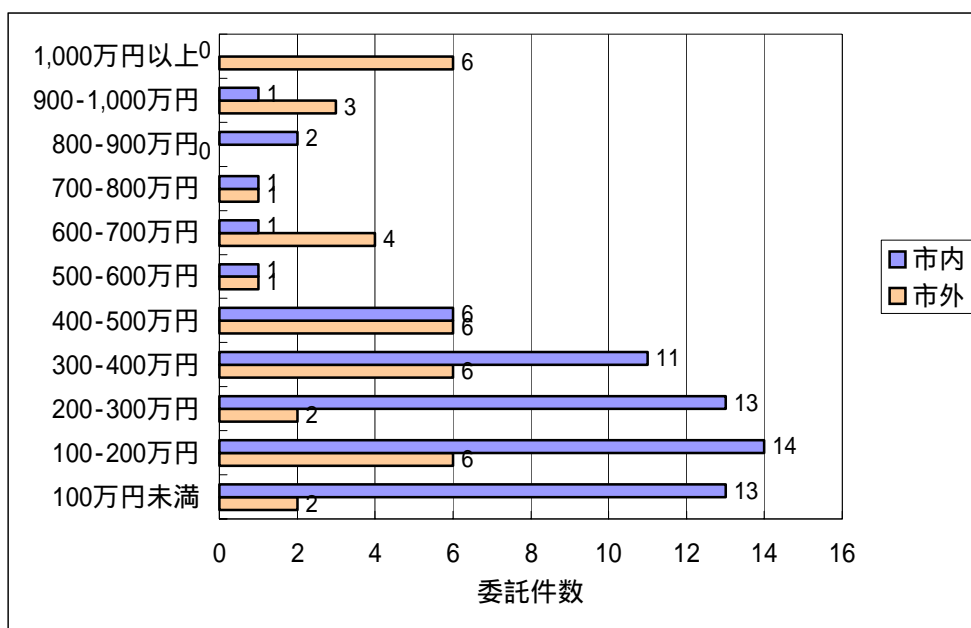


図 2 - 7 委託発注の最終契約額階級別度数分布図

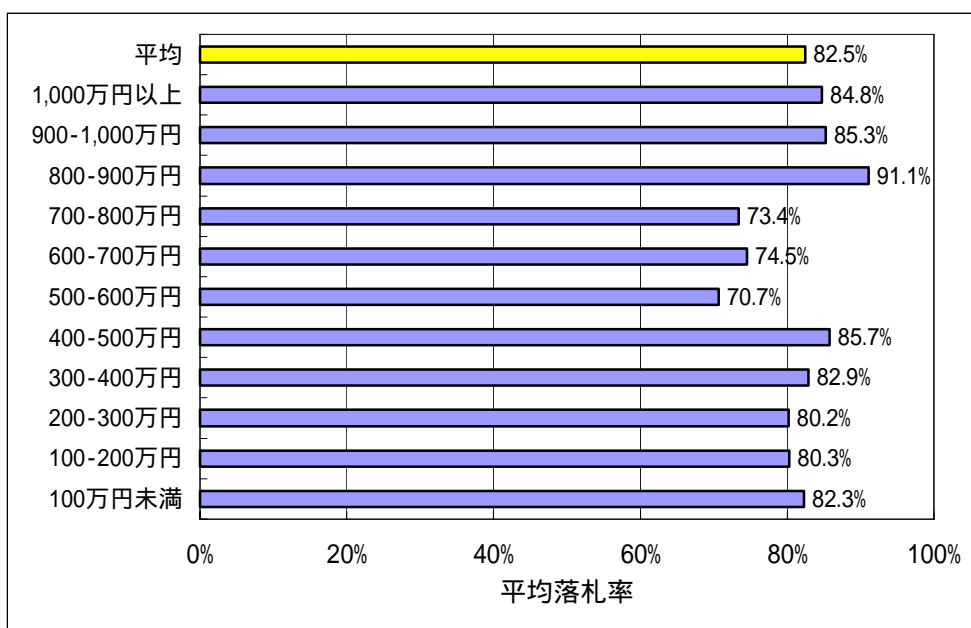


図 2 - 8 委託発注の最終契約額階級別・平均落札率の分布

(b) 工事発注

図 2 - 9 に工事発注の最終契約額階級別度数分布図を示す。また、図 2 - 10 に階級別の平均落札率を示す。

図 2 - 9 から、工事件数は 1,000 万円未満の工事が圧倒的に多く、平成 15 年度と同様の傾向である。市内業者が圧倒的に多く落札しており 85%を占めている。

平均落札率(図 2 - 10)では、すべてが 80%以上であり、金額階級による偏りは少ないように思われる。最終契約額の階級による偏りが少ないということは、この視点から談合の有無を判断することはできないと考えられる。

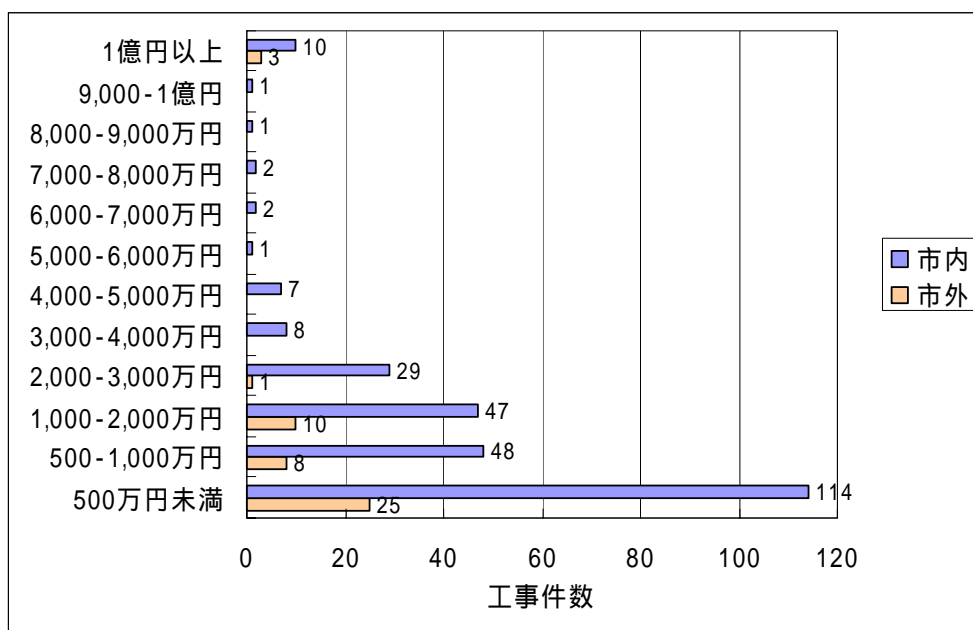


図 2 - 9 工事発注の最終契約額階級別度数分布図

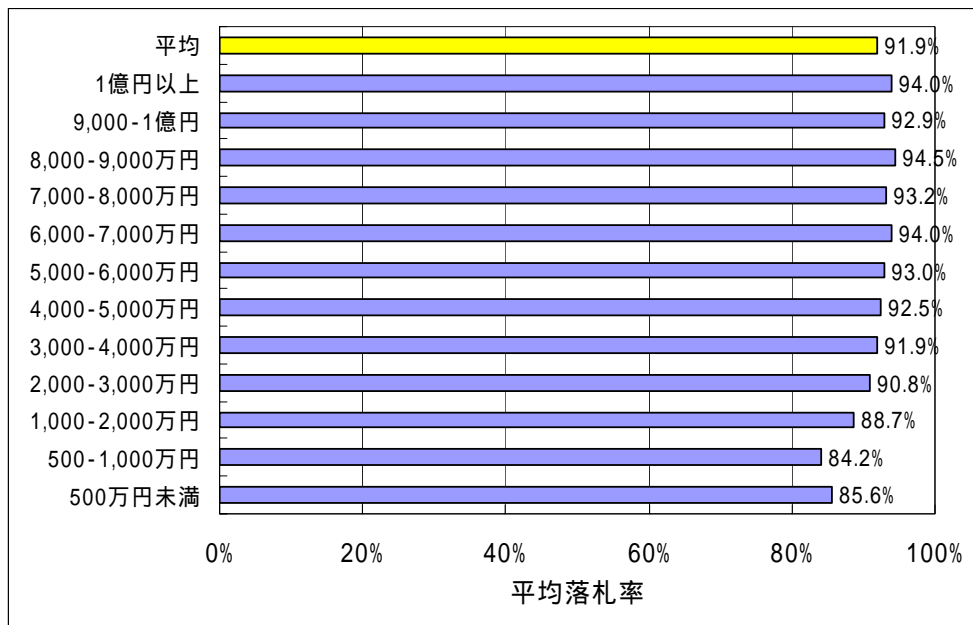


図 2 - 10 工事発注の最終契約額階級別・平均落札率の分布

2.4 市内・市外業者による分析

(a) 委託発注

図 2 - 11 に最終契約額の割合の図を示す。また、図 2 - 12 に平均落札率を示す。

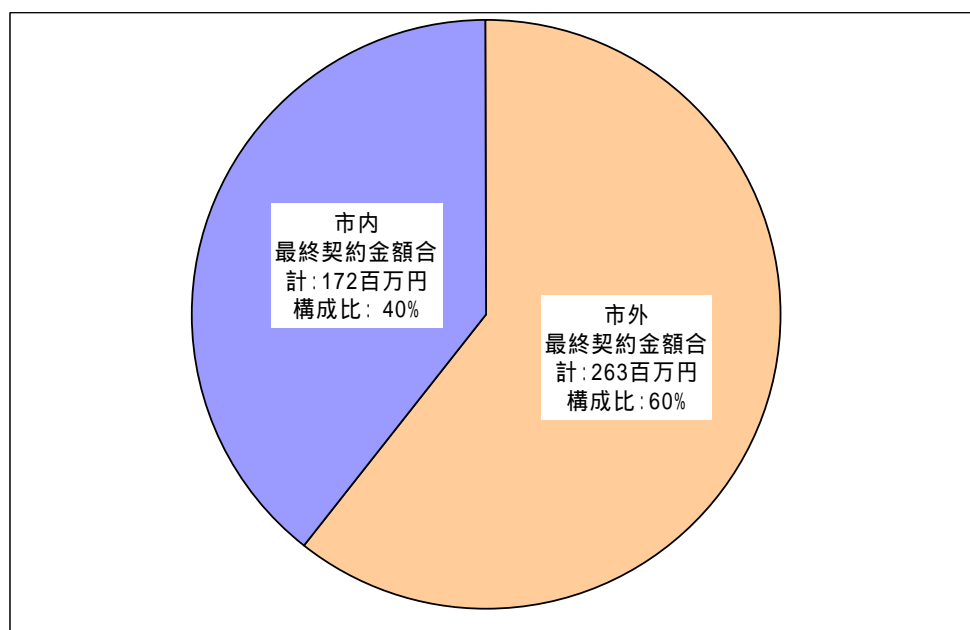


図 2 - 11 委託発注における最終契約額の市外・市内業者の割合

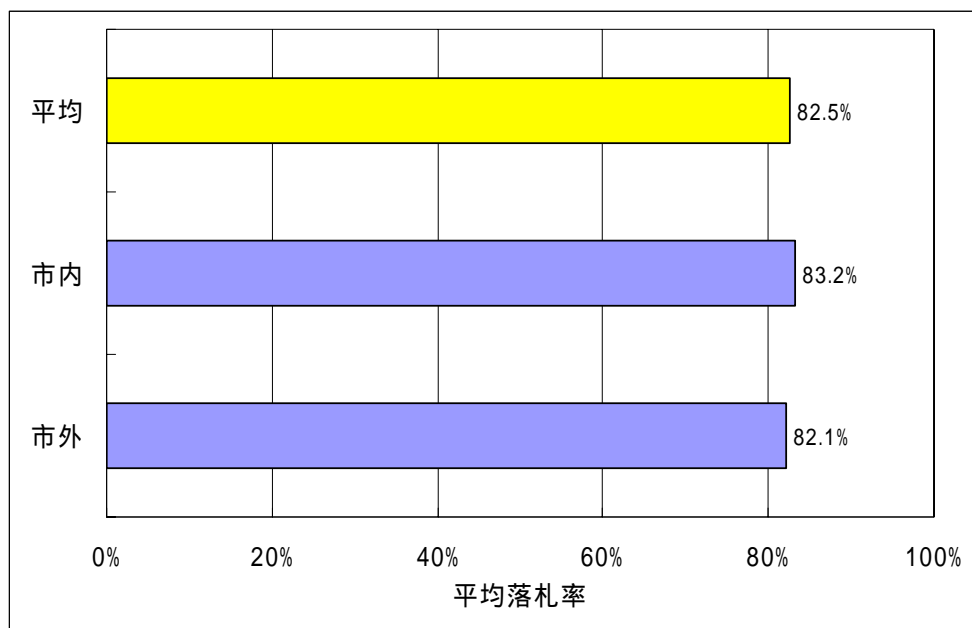


図 2 - 12 委託発注の市外・市内業者別平均落札率

図 2 - 11 から、平成 16 年度は委託発注最終契約額において市外業者合計が 60%と平成 15 年度の傾向を逆転している。一方、平均落札率（図 2 - 12）は、市内・市外の差がわずかであった。委託発注の内容により市外業者が指名され落札された傾向が見られる。

(b) 工事発注

図 2 - 13 に最終契約額の割合の図を示す。また、図 2 - 14 に平均落札率を示す。

工事発注に関しては、委託発注とは異なり、市内業者の割合が 65%であり（図 2 - 13）、市内業者が受注した工事契約額が高いことがわかる。これは平成 15 年度と同様である。また、図 2 - 14 のとおり、市内・市外の平均落札率の差は非常に小さい。これも平成 15 年度と同様の傾向であった。ただし、平成 16 年度の標本平均の有意差検定は行っていない。

市内・市外業者の落札の比が伺えるにすぎず、結果として、このデータからも談合有無の検証はできない。

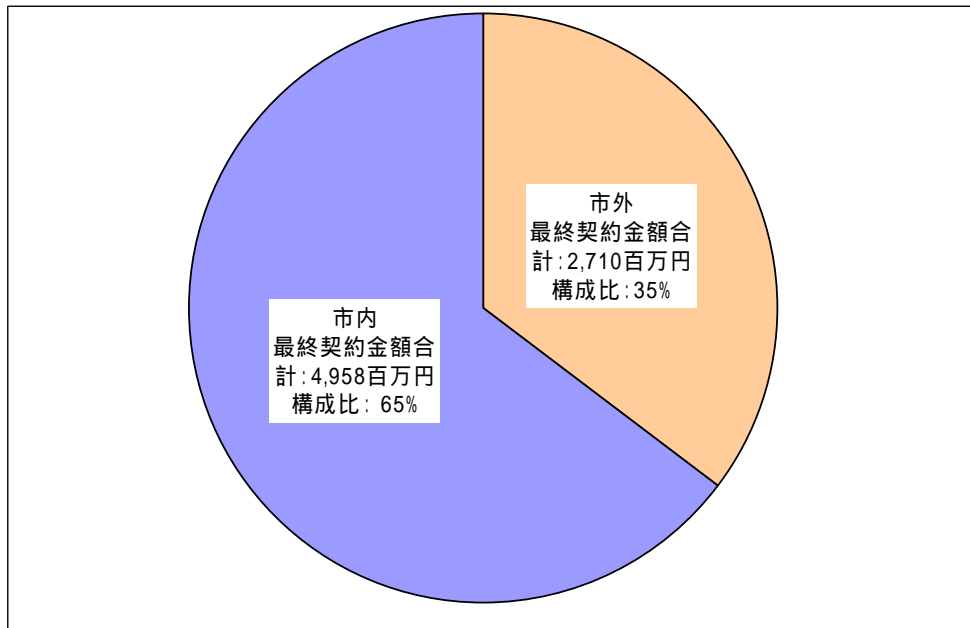


図 2 - 13 委託発注における最終契約額の市外・市内業者の割合

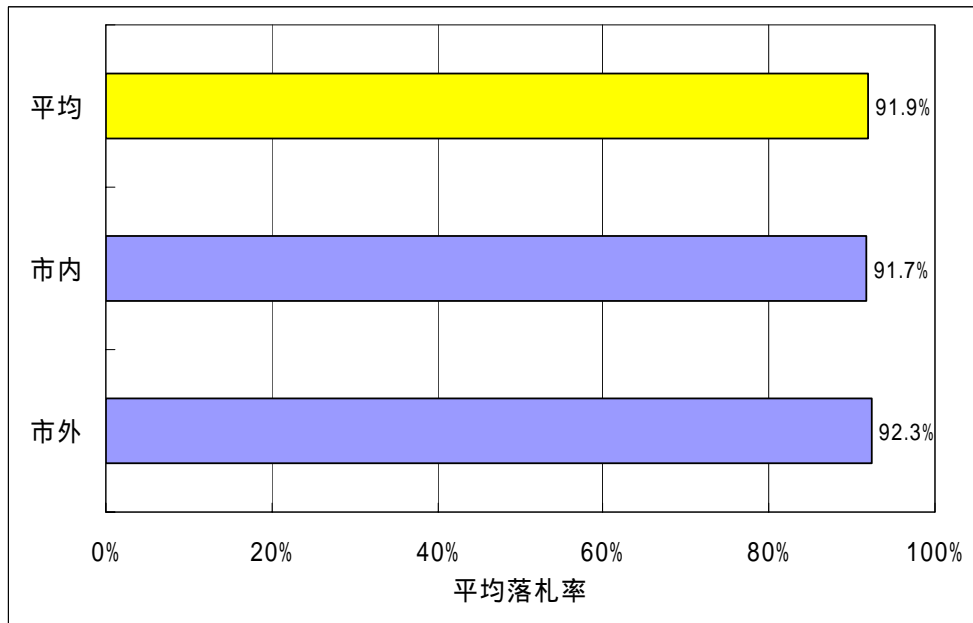


図 2 - 14 工事発注の市外・市内業者別平均落札率

2.5 契約方法による分析

(a) 委託発注

平成 16 年度の委託発注では、指名競争入札が 95 件、随意が 5 件と度数に大きな隔たりがあり、分析は意味をなさない。このため、契約方法別の分析は割愛する。

(b) 工事発注

図 2 - 15 に契約方法別度数分布を示す。また、図 2 - 16 に契約方法別の最終契約額合計を、図 2 - 17 に平均落札率を示す。

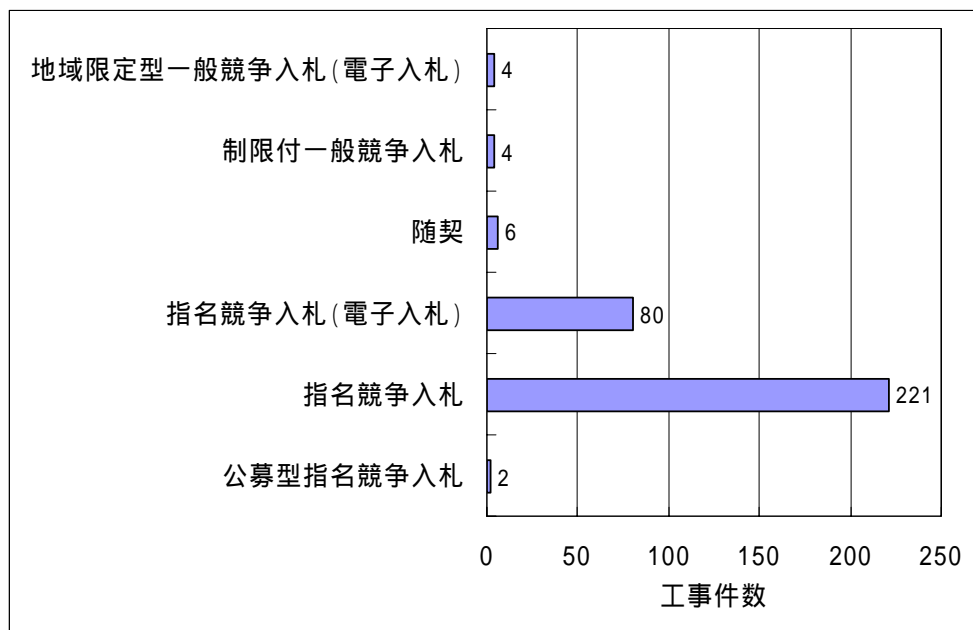


図 2 - 15 工事発注の契約方法別工事件数 (度数) 分布

図 2 - 15 から、指名競争入札がもっとも多く、ついで指名競争入札 (電子入札) が多いことがわかる。電子入札の率は地域限定型一般競争入札もあわせ 84 件であり、件数では平成 15 年度の 43 件よりも大幅に増加したことになる。しかし、工事件数全体の割合は 26% にとどまっている。

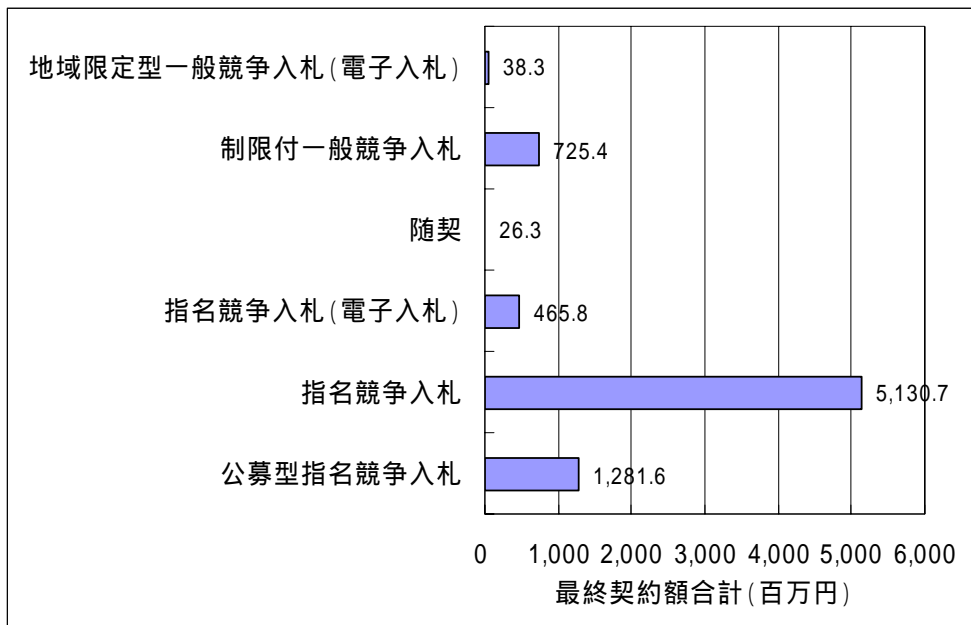


図 2 - 16 工事発注の契約方法別最終契約額合計

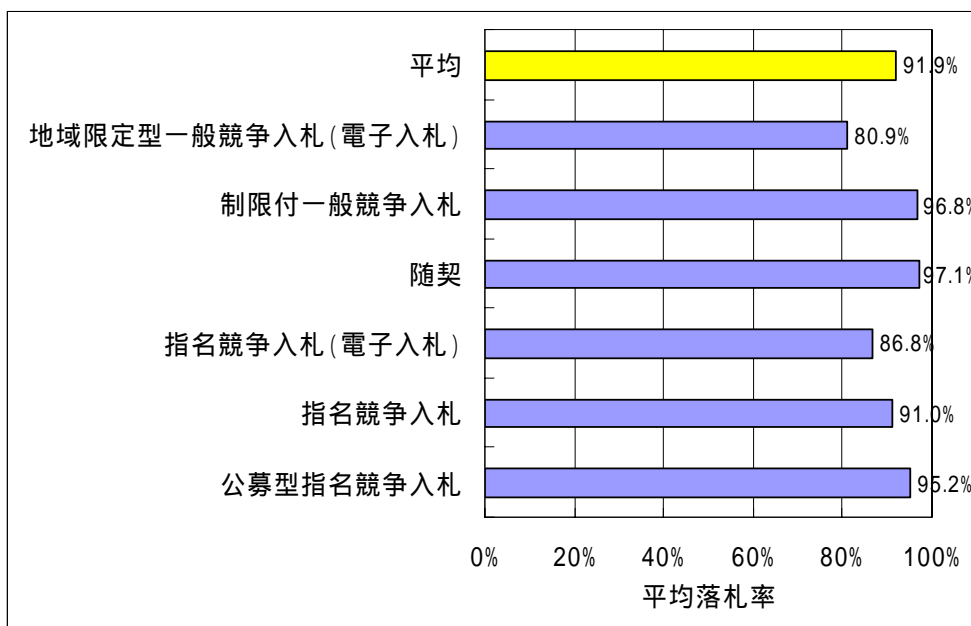


図 2 - 17 工事発注の契約方法別平均落札率

図 2 - 16 では、電子入札の合計（504 百万円）が全体の最終契約金額合計（7,668 百万円）に占める割合が 6.6%と少なく、件数で見た場合（図 2 - 15）に比べ、著しく小さい。図 2 - 17 では、電子入札の平均落札率が他より少ない傾向が見られるため、電子入札を一層推進することが必要であると考えられる。

2.6 平成 16 年度のまとめ

平成 16 年度の落札傾向についてまとめる。

- 平成 15 年度同様，委託発注では際立った特徴がみられないが，工種による落札率の違いが顕著である。これは，工種により単価が比較的決まりやすいものがあるためと考えられる。
- 工事発注では，平成 15 年度同様，工種による差，市内・市外業者による差，契約方法の違いによる差が度数，契約額，落札率とにも見られた。
- 特に，契約方法では平成 15 年度に比べ電子入札の件数が増加した。これは当入札等管理委員会の答申にも沿う結果である。
- 平成 15 年度同様，これらの分析から談合の有無を検証することはできないが，電子入札が今後増加することが望ましいと思われた。

なお，平成 15 年度同様，工事発注における落札率の度数分布を示す。平成 16 年度も平成 15 年度同様，90 - 95%の度数がもっとも高い。

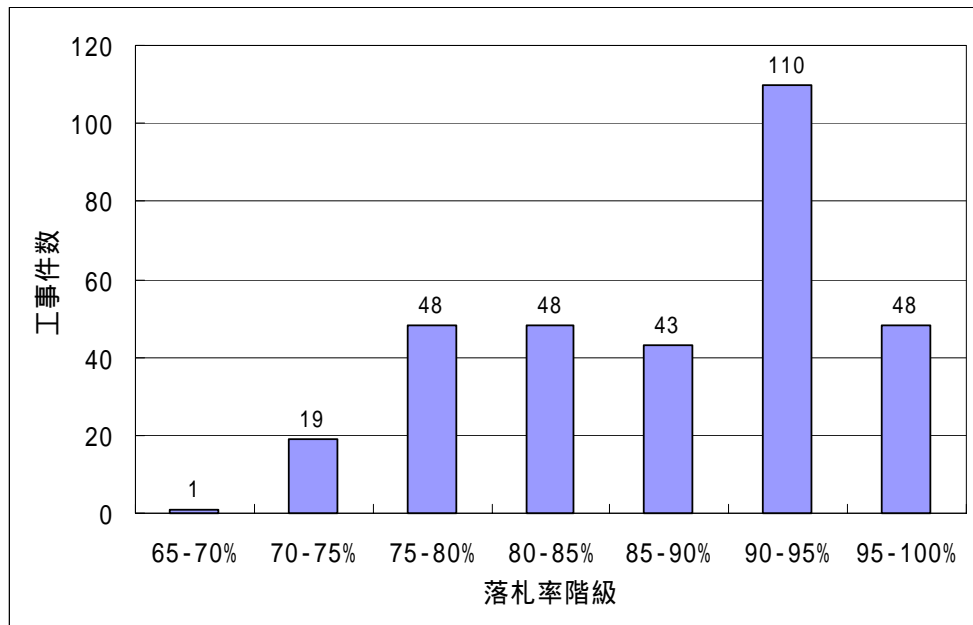


図 2 - 18 工事発注の落札率階級別度数分布

第3章 平成17年度の分析

3.1 概要

平成15・16年度と同様の分析を行う。平成17年度の委託発注ならびに工事発注の概要を表3-1に示す。委託発注は全体で106件、工事発注は307件であった。これらの傾向は平成15・16年度と変わらない。表3-2に落札率の基本統計量を示す。表より、委託発注ならびに工事発注の平均落札率ならびに標本平均落札率は、いずれも工事発注の落札率が高く、平成15・16年度と同傾向である。

表3-1 平成17年度委託・工事発注の概要

区分	件数(件)	予定価格合計(千円)	当初契約額合計(千円)	平均落札率	最終契約額合計(千円)
委託発注	106	430,163	371,708	86.4%	387,332
工事発注	307	5,481,662	5,023,957	91.7%	5,167,279

表3-2 平成17年度委託・工事発注における落札率の基本統計量

区分	件数(件)	標本平均	中央値	標準偏差	分散	最小	最大	95%信頼区間
委託発注	106	87.4%	91.9%	0.091582	0.008387	56.8%	98.5%	[85.7,89.2%]
工事発注	307	89.3%	91.9%	0.064341	0.004140	66.0%	100.0%	[88.6%,90.1%]

3.2 工種による分析

平成17年度の工種による落札状況の違いは以下のとおりである。

(a) 委託発注

図3-1に工種別委託発注件数の度数分布図を表示する。また、図3-2に工種別の委託発注における最終契約額合計を、図3-3に平均落札率を示す。

図3-1から、委託発注では測量、土木設計の委託発注件数が多いことがわかり、この傾向は平成15・16年度と同様である。平成16年度に比べ、建築設計がわずか3件と減少しているが、これは、市の公共工事における都合であり、特に議論すべきことはない。

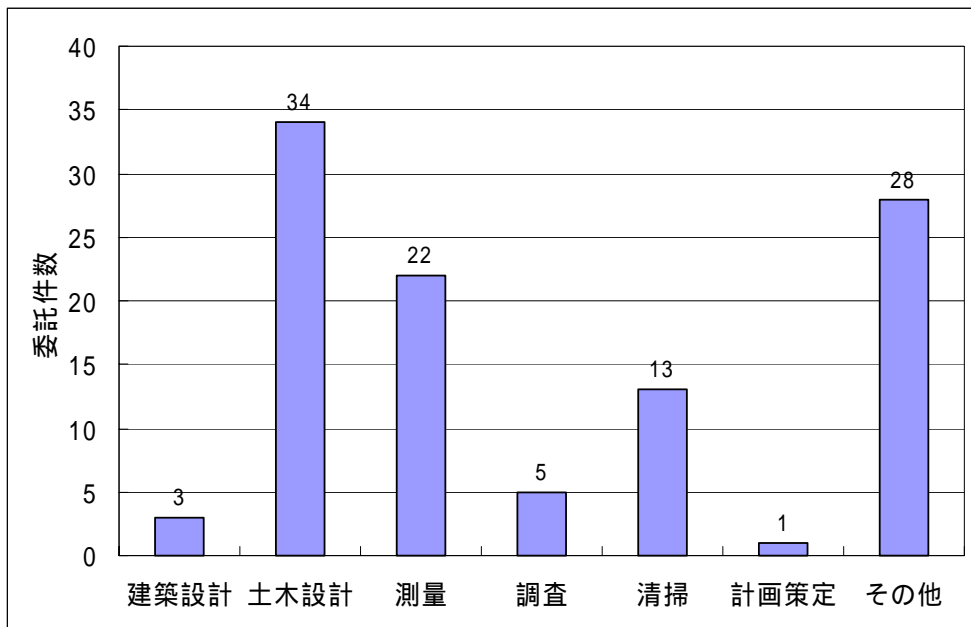


図 3 - 1 職種別委託発注件数の度数分布図

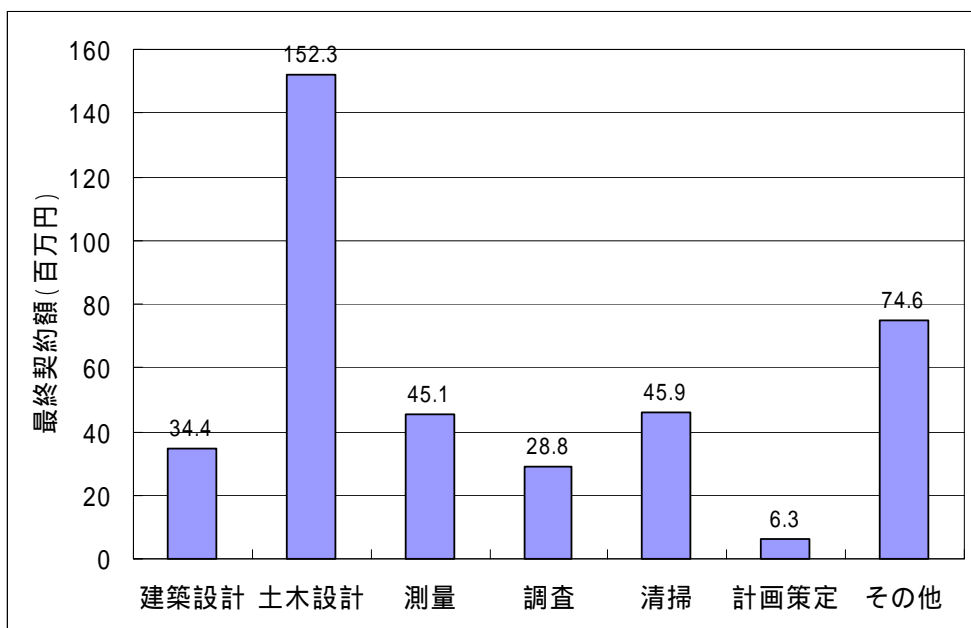


図 3 - 2 委託発注の職種別最終契約額合計分布図

図 3 - 2 からは、土木設計の最終契約額が高く、全体の 39% を占めていることがわかる。なお、平成 16 年度は建築設計がもっとも多かったがその他の傾向は特に変わっていない。年度ごとに事情が異なることが確認された。

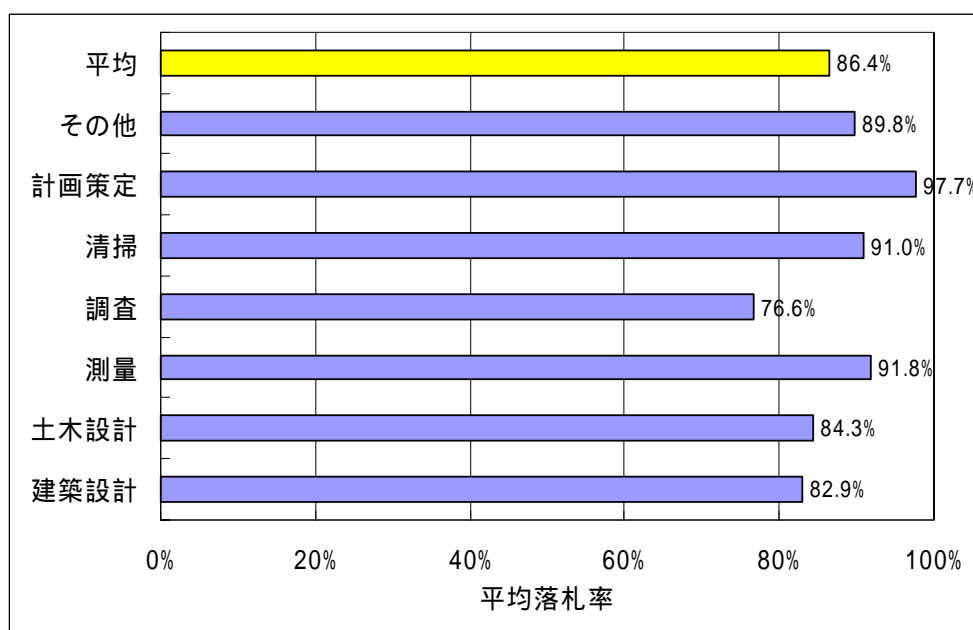


図 3 - 3 委託発注の工種別平均落札率

図 3 - 3 から、調査が低い傾向にあり 80%を下回っている。これは、平成 15・16 年度に比べても著しく低くなっている。しかし、件数が少ないため、落札率を直接比較することは困難と考えられる。また、平成 15・16 年度に比べ、土木設計の平均落札率が高い。この差は有意であることから、平成 17 年度の委託発注に特殊な事情があったものと推察する。

(b) 工事発注

図 3 - 4 に工種別発注件数の度数分布を、図 3 - 5 に最終契約額合計の分布図を、図 3 - 6 に平均落札率をそれぞれ示す。

図 3 - 4 から、一般土木の工事件数が 116 件と最も多く、全体の 38%を占めていたことがわかる。これは平成 16 年度が 43%であったのに対し減少し、平成 15 年度の水準に近い。

図 3 - 5 から、最終契約金額の合計が高いものも一般土木であり、全体の 42%であった。一般土木工事が公共工事全体に占める割合が高いという岩見沢市の傾向は平成 15 年度から同様の傾向が続いている。

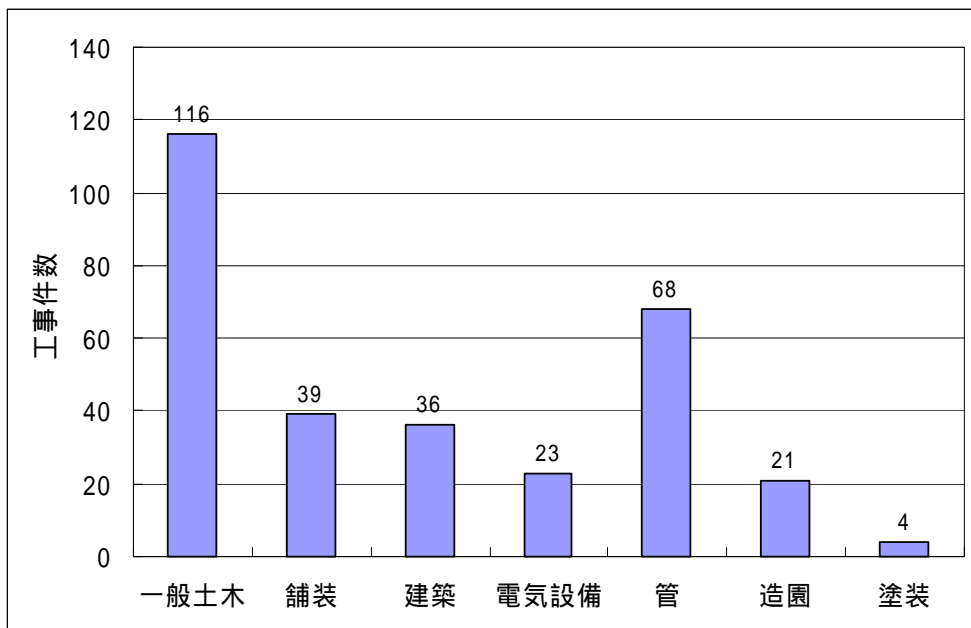


図 3 - 4 工種別工事発注の度数分布

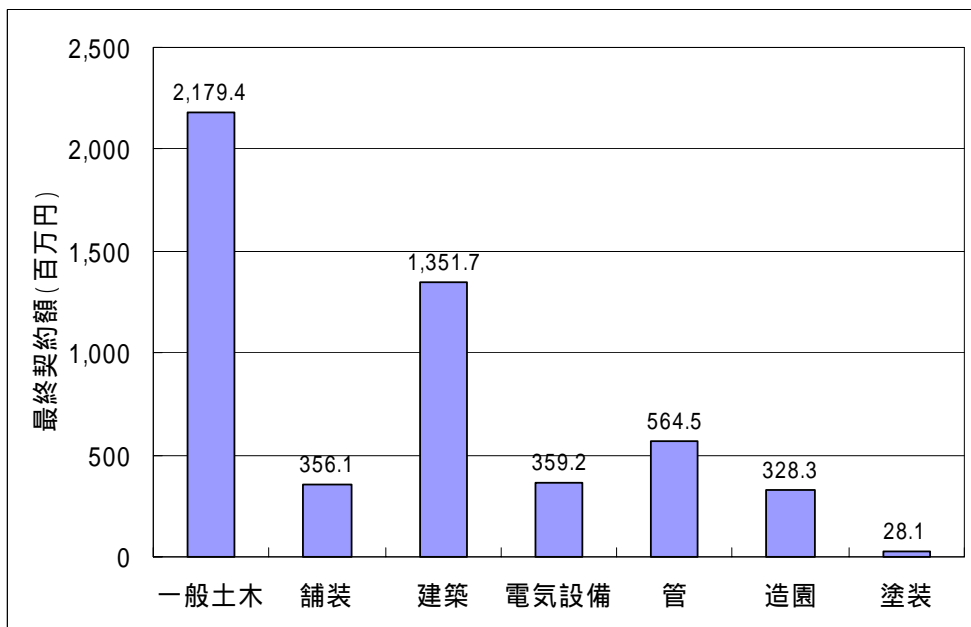


図 3 - 5 工事発注の工種別最終契約額合計分布図

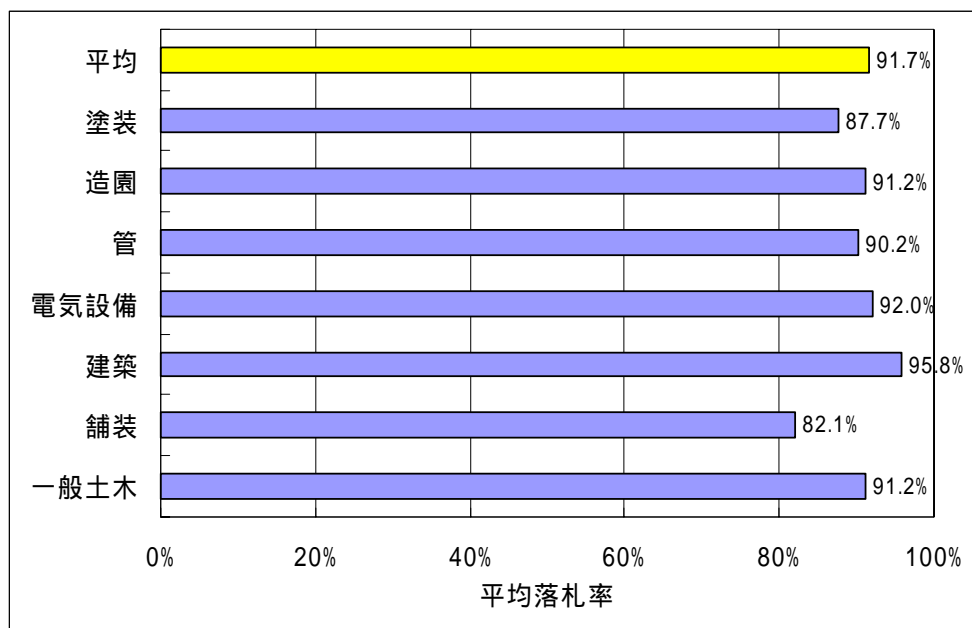


図 3 - 6 工事発注の工種別平均落札率

図 3 - 6 は ,平成 16 年度の傾向とほとんど変わりなく ,全体の平均も 91.7%である .しかし ,標本平均の有意差検定では ,有意であるとの結果が得られた .これらについては第 4 章で考察する .

3.3 最終契約額による分析

(a) 委託発注

図 3 - 7 に最終契約額階級別度数分布図を示す .また ,図 3 - 8 に階級別の平均落札率を示す .

図 3 - 7 から ,平成 15・16 年度と同様 ,委託発注では 500 万円未満のものが大半であることがわかる .

図 3 - 8 では ,700 ~ 800 万円未満および 1,000 万円以上の階級における平均落札率が低い傾向に見える .傾向は ,平成 15・16 年度ともに変化していることから ,最終契約額による違いを考察することは困難であると考えられる .

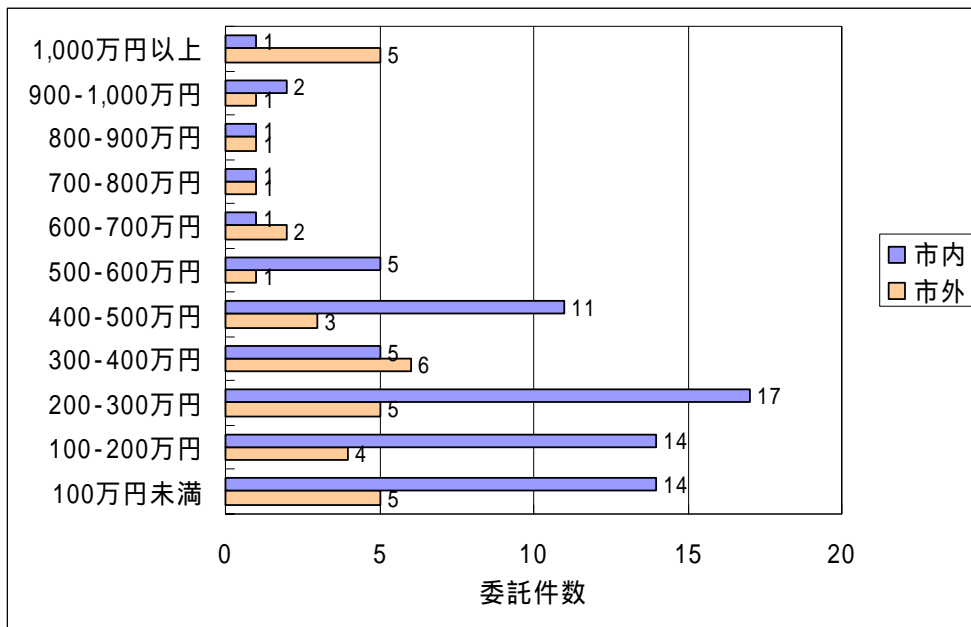


図 3 - 7 委託発注の最終契約額階級別度数分布図

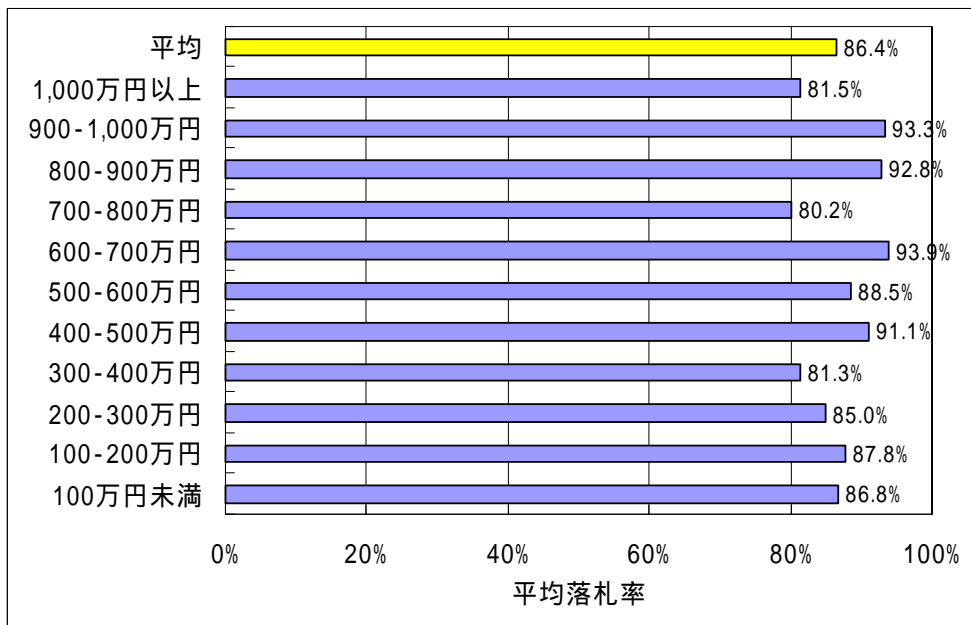


図 3 - 8 委託発注の最終契約額階級別・平均落札率の分布

(b) 工事発注

図 3 - 9 に工事発注の最終契約額階級別度数分布図を示す。また、図 3 - 10 に階級別の平均落札率を示す。

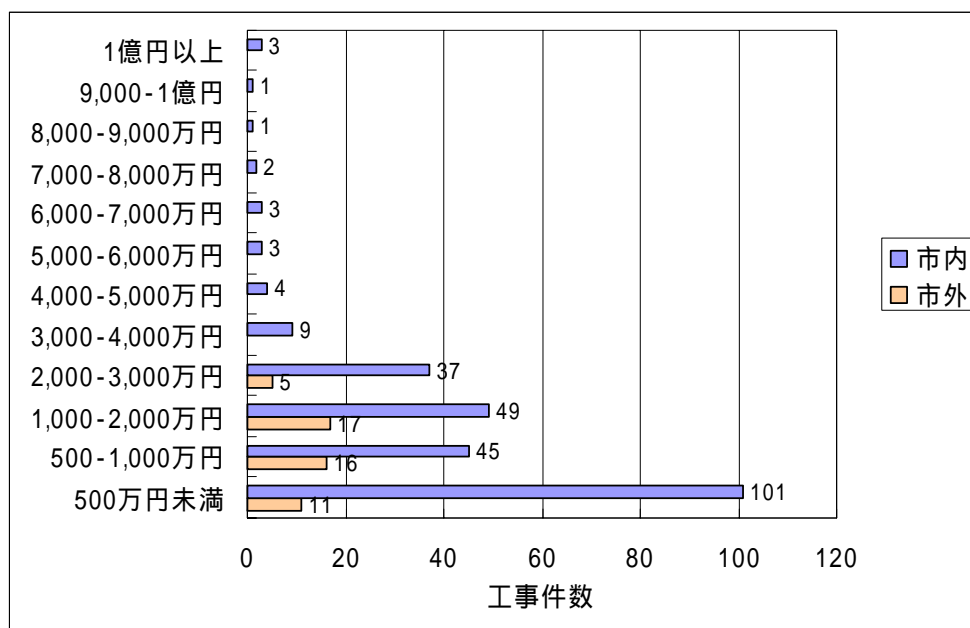


図3-9 工事発注の最終契約額階級別度数分布図

図3-9から、工事件数は1,000万円未満の工事が圧倒的に多く、平成15・16年度と同様の傾向である。市内業者が圧倒的に多く落札しており全体の84%を占めている。

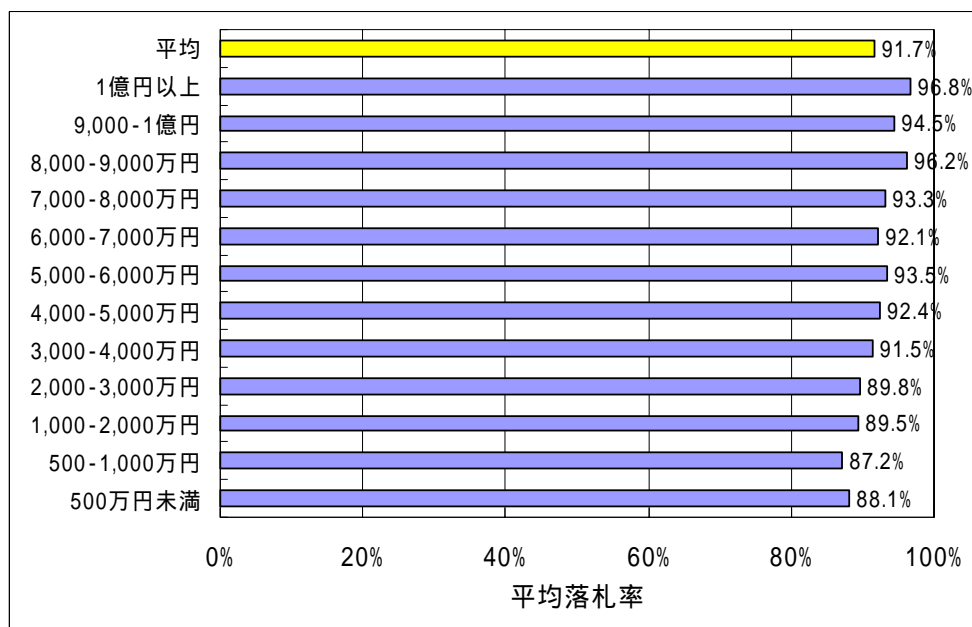


図3-10 工事発注の最終契約額階級別・平均落札率の分布

平均落札率（図 3 - 10）では、すべてが 80%以上であり、金額が少ないほど落札率が低い傾向にあるように見られる。しかし、第 4 章で考察するとおり、最終契約額と落札率に相関はない。図 3 - 9 に示すとおり、階級ごとの件数に差がありすぎることから、この傾向は偶然であると考えられる。

3.4 市内・市外業者による分析

(a) 委託発注

図 3 - 11 に最終契約額の割合の図を示す。また、図 3 - 12 に平均落札率を示す。

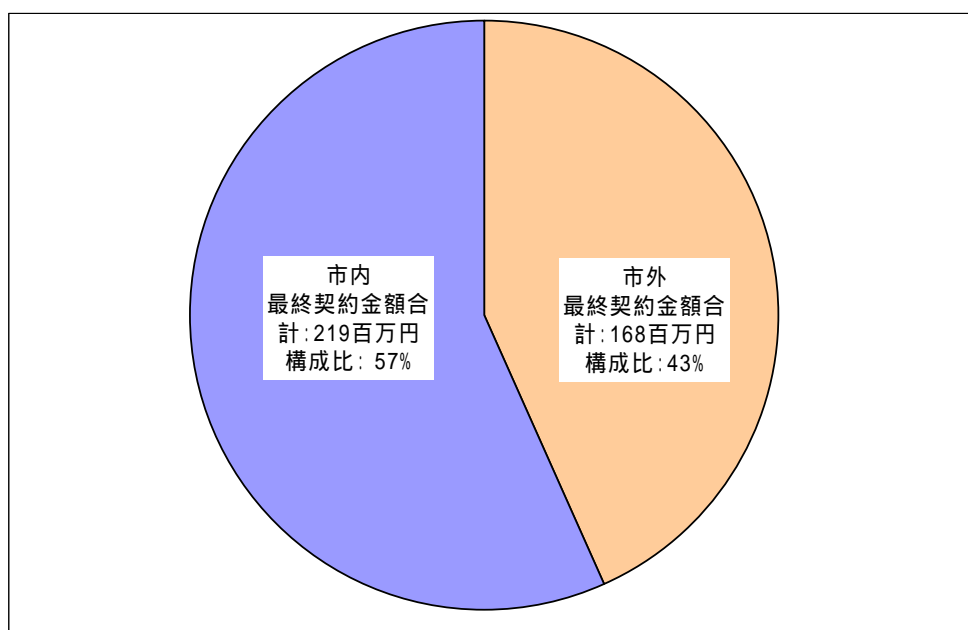


図 3 - 11 委託発注における最終契約額の市外・市内業者の割合

図 3 - 11 では、委託発注において市内業者が多く、平成 16 年度の傾向から逆転している。年度により相違があることが確認できる。

図 3 - 12 では、市内業者の平均落札率が 90.8%であるのに対し、市外業者は 81.2%であり、傾向としては平成 16 年度と同様であるが、差が大きい。標本平均では有意となったことから、市内よりも市外業者の落札率が低いといえる。しかし、平成 15 年度の状況とは逆転していることから、年度ごとに、あるいは発注の内容ごとに状況が変化していると言える。すなわち、委託発注においては、市内・市外業者ごとの落札傾向について注意を払う必要があることが示唆される。

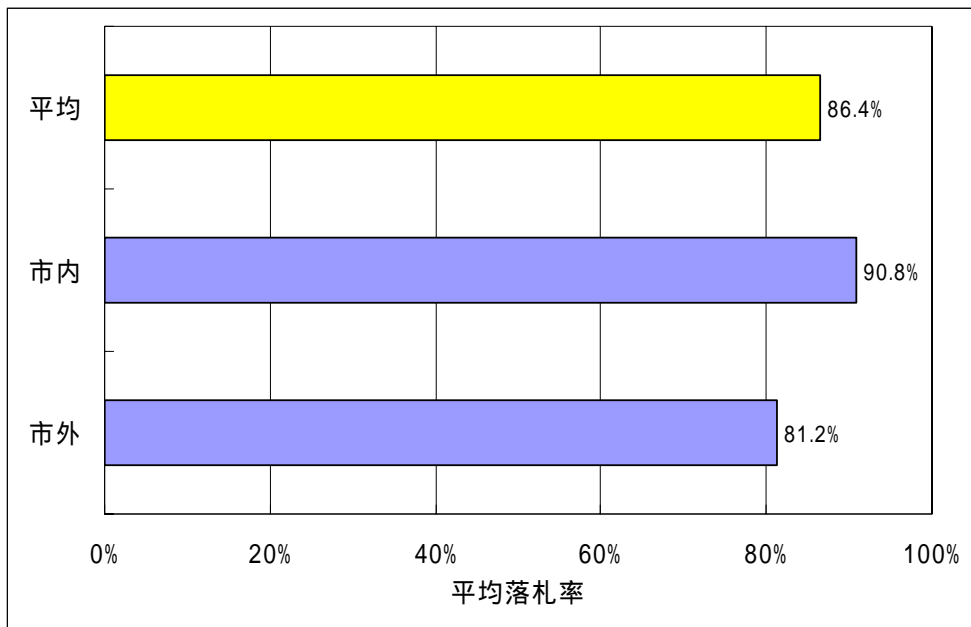


図 3 - 12 委託発注の市外・市内業者別平均落札率

(b) 工事発注

図 3 - 13 に最終契約額の割合の図を示す。また、図 3 - 14 に平均落札率を示す。

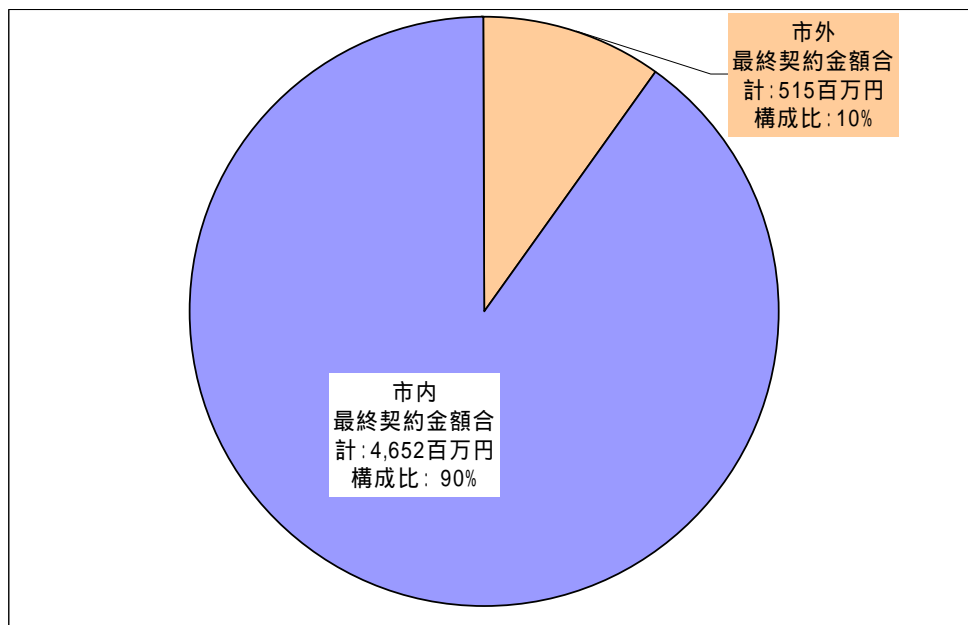


図 3 - 13 委託発注における最終契約額の市外・市内業者の割合

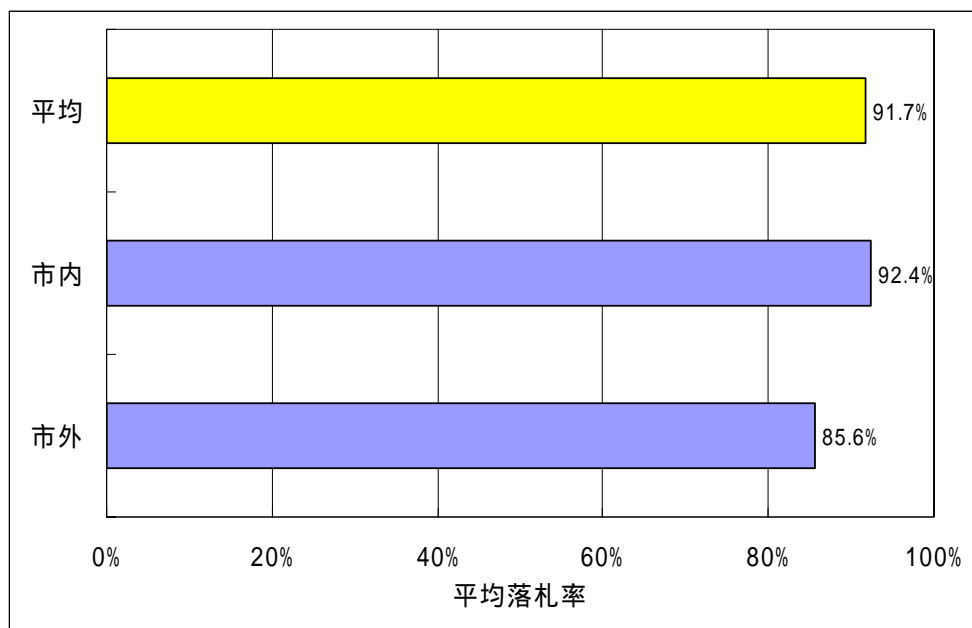


図 3 - 14 工事発注の市外・市内業者別平均落札率

図 3 - 13 から、平成 17 年度の工事発注では、市内業者の落札が多く、最終契約金額では 90% を超えていたことがわかる。これは平成 15・16 年度と著しくことなる。

図 3 - 14 からは、市内業者の平均落札率が高く、標本平均の差も有意であった。このため、市内業者の落札率が高いと言え、過去 2 年間と傾向が異なる。これらについては、第 4 章にまとめる。

3.5 契約方法による分析

(a) 委託発注

平成 17 年度の委託発注では、随意による契約が 1 件しかなく、分析は意味をなさないため割愛する。

(b) 工事発注

図 3 - 15 に契約方法別度数分布を示す。また、図 3 - 16 に契約方法別の最終契約額合計を、図 3 - 17 に平均落札率を示す。

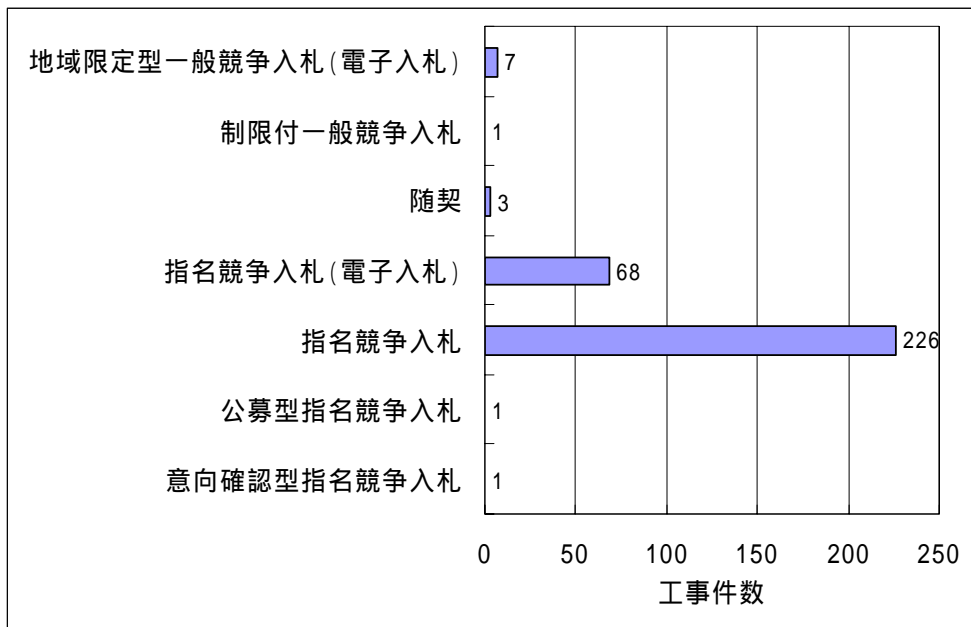


図 3 - 15 工事発注の契約方法別工事件数(度数)分布

図 3 - 15 から、指名競争入札がもっとも多く、ついで指名競争入札(電子入札)が多い。電子入札は全件あわせて 75 件であり、平成 16 年度よりも微減した。

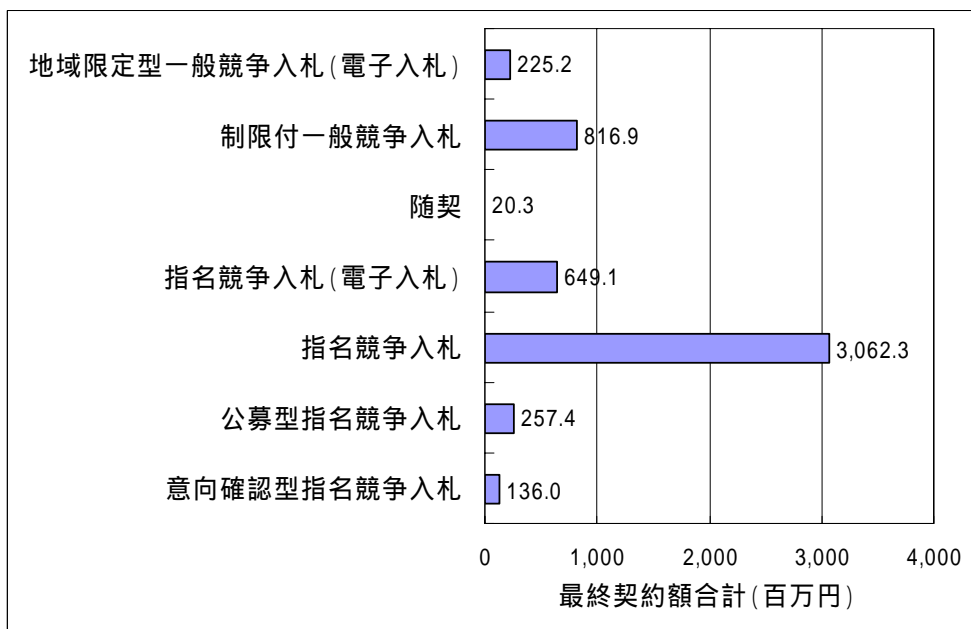


図 3 - 16 工事発注の契約方法別最終契約額合計

最終契約額合計(5,167 百万円)に占める電子入札(874 百万円)の割合は、17%であり、

金額的には平成 16 年度の 2 倍以上であった（図 3 - 16）。

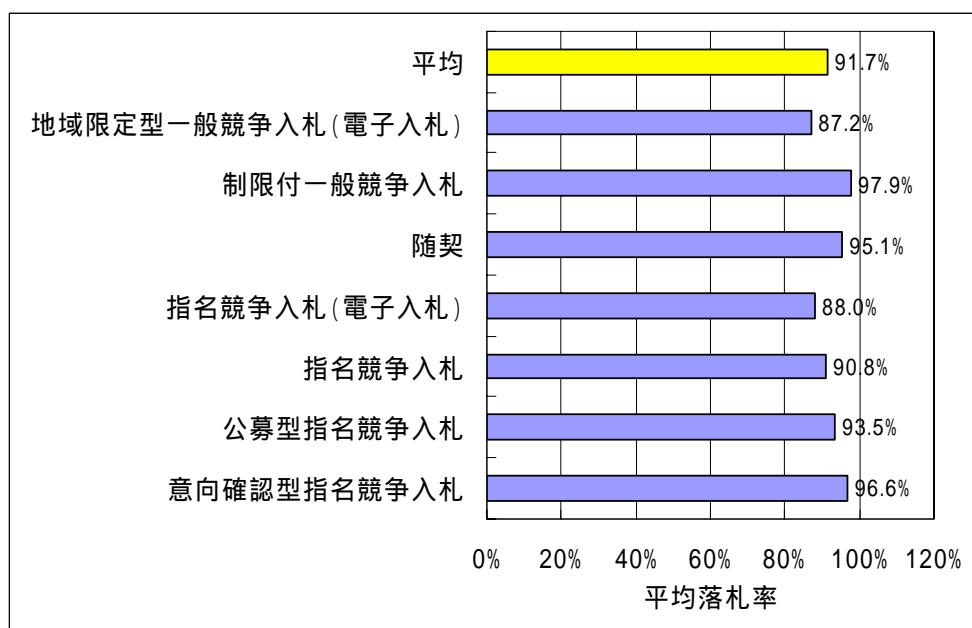


図 3 - 17 工事発注の契約方法別平均落札率

契約方法別平均落札率では、電子入札の落札率が他よりも低い傾向が見られ、この傾向は平成 15 年度から変わらない。標本平均の有意差検定でも有意であることから、電子入札の平均落札率が低いと言え、引き続き電子入札を増やすことが望ましいと考えられる。

3.6 平成 17 年度のまとめ

平成 17 年度の落札傾向についてまとめる。

- 工種による違いは平成 15・16 年度と同傾向であり、同様の結論である。
- 市内・市外業者の落札傾向では、工事発注において市内業者の構成比が著しく高く(90%)、平均落札率も高い。市内業者の落札傾向について注意しなければならない。すなわち、このデータだけでは談合有無の結論は見出せないが、少なくとも平成 15・16 年度と明らかに傾向が異なることに注意が必要であろう。
- 契約方法では、電子入札の件数そのものは平成 16 年度と変わらなかったが、最終契約額合計が増えた。電子入札の平均落札率が低いため、予算節約の観点からは好ましい。このため、引き続き電子入札を増やすことが望ましいと考えられる。

第4章 3カ年の落札率変化の分析

4.1 全体の落札率の推移について

平成15～17年度の平均落札率と標本平均落札率の推移は表4-1に示すとおりである。

表4-1 平均落札率と標本平均落札率の差異（平成15年度～17年度）

区分	H15年度	H16年度	H17年度
委託発注（平均落札率）	78.0%	82.5%	86.4%
工事発注（平均落札率）	86.8%	91.9%	91.7%
委託発注（標本平均落札率）	77.6%	82.9%	87.4%
工事発注（標本平均落札率）	86.0%	87.7%	89.3%

表4-1より、平均落札率と標本平均の落札率には差異がある。これは、次のような理由によるものと考えられる。

- 予算と落札額を全体合計し落札率を求める場合（平均落札率）、個々の落札率の動向は情報として欠落する。
- 一方、標本平均を用いるならば、個々の落札傾向が基本統計量として求められることになる。
- 標本平均を議論するならば、仮説検定による傾向を確かめられる。

以上から、公共工事の予算がどの程度節約されたかどうかを判断するには平均落札率がふさわしいと考えることもできるが、各年度の落札率の“代表値”としては、標本平均がふさわしいと思われる。よって、これ以降では、標本平均の落札率について考察する。

工事発注の標本平均は、表4-1のとおり年々上昇傾向にある。表1-2、2-2、3-2に示す95%信頼区間も上昇していること、また、信頼区間がいずれも幅が狭く、かつ前年の標本平均を上回ることから、平成15年度以降、岩見沢市の工事発注については、落札率が上昇傾向にあると結論付けられる。

4.2 電子入札の効果について

平成15年度と異なり、平成16・17年度の工事発注における電子入札の導入率（全件数に占める割合）は20%を超えている。これは、電子入札が平均的に落札率が低い傾向にあ

るため（実際，差は有意であった），電子入札を多く導入することが全体の落札率を下げることにつながるとの希望的観測が広がり，導入を推進した結果である．

しかし，その効果は全体の標本平均の低減にはつながらず，結果として，年々，落札率は上昇傾向にある．この事実から，少なくとも 20% 程度の電子入札の導入では，全体の落札率を低くする効果が期待できないことを示している．

すなわち，一部には電子入札の導入が落札率低減につながるの“迷信”があるが，必ずしも根拠のあるものとは考えられないと結論付ける．電子入札の導入率が全体の何割を超えれば落札率低減に効果的かは考察していないが，もし，100%であったとしても景気や物価などの市場動向によっては，必ずしも期待通りの効果が望めないものと推察される．

しかしながら，一方でこれまでの電子入札の平均落札率が低い以上，また，それが世論に受け入れられ易い入札方法である以上，今後も電子入札の導入に積極的であるという姿勢は，好ましいものとする．

4.3 金額と落札率の関係について

平均落札率が工事金額（最終契約額）に対し，どのような関係であるかを調べた．その結果，図 4 - 1 のような分布になり，相関係数も 0.1 以下であったことから，両者には関係がない（無相関）と結論付けられる．

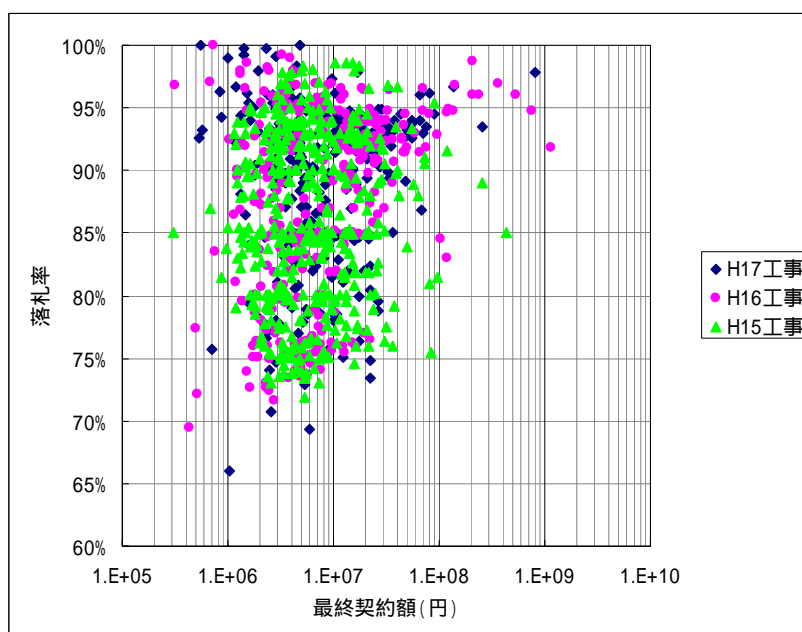


図 4 - 1 工事発注における最終契約額と落札率の分布

図 4 - 1 と前章までの結果から，次のことが示唆される．

- 工事発注においては，工事の金額の大小ではなく，工種あるいは市内・市外業者の違いによる落札率の変化に注目すべきである．
- したがって，市内・市外業者や工種（業種）ごとの状況を監視することが重要であり，本報告で議論した工種ごとの差異や市内・市外の区分ごとの差異に注意を払えばよいと考えられる．

以上から，今後の統計的な検証においては，工種と市内・市外業者の動向について検討すればよく，以上は今後も継続して議論していく必要があると考える．

第5章 分析結果のまとめ

本報告では、平成15年度から17年度の期間における、岩見沢市の委託発注ならびに工事発注の動向と落札率の推移について分析を行った。以上の議論から、次のことが結論付けられる。

- (1) 平成15年度～17年度では、落札率が上昇傾向にあると結論付けられた。今後の推移を見守る必要があるが、落札率が高くなることは世論の非難の対象となりかねないため、注意が必要である。(しかし、落札率は市の予算の立て方、すなわち基準単価や景気動向にも左右されるため、落札率そのものを談合などの判断基準にすることは意味がない。)
- (2) 最終契約額(工事代金)と落札率には相関が見られなかった。このため、今後の統計的な判断は、業者住所区分(市内・市外)と工種(業種)に絞り、実施すればよい。このことは、談合の監視の観点からも適切であると考えられる。
- (3) しかしながら、以上の議論から、これまでの工事発注において談合がおこなわれたかどうかを最終的に判断することはできない。また、今後、このような統計的検証を行ったとしても談合の有無を判断することは非常に困難である。しかしながら、市の公共工事発注における動向を把握する意味において、今後もこのような検討を重ねるべきであると思われる。
- (4) 電子入札は、落札率低減効果がそれほど期待できないものと考えられる。しかしながら、落札率低減以外の効果が期待できるため、今後も導入を促進すべきであると考えられる。また、契約方法では、指名ではなく一般入札が推奨される風潮が広まっている。今後、岩見沢市においても同様の契約方法が促進されるものとする。

この報告では、平成15～17年度のみについての議論を行ったため、ここで述べた結論が必ずしも正しいものとは考えない。また、確率過程を考慮するならば、すべての事象を独立であるとして議論することは正確ではない、との批判が予想されることも否定しない。しかし、これまでこのような検証が行われていないことも事実である。少なくとも、このような検討は有用であるとの立場から、今後も公共工事に関する監視を行うべきであるとする。

付 録

A 平均落札率と標本平均落札率の定義

本報告では、落札率について次のように定義する。

平均落札率は、委託発注ならびに工事発注とも、次の計算式により定義する。

$$\bar{X} = \frac{\sum S_y}{\sum S_r} \quad (\text{A1})$$

ここに、 \bar{X} は平均落札率、 S_y は予定価格、 S_r は当初契約額（落札金額）を示す。すなわち、平均落札率は、全発注の予定価格合計を当初契約額（落札金額）合計で除した値と定義した。

一方、標本平均落札率は次のように定義する。

$$\bar{x} = \frac{1}{n} \sum (S_y / S_r) \quad (\text{A2})$$

ここに、 \bar{x} は標本平均落札率であり、 n は標本数（件数）である。すなわち、標本平均落札率は、それぞれの発注における標本平均（算術平均）である。母平均（平均の真値）は不明であり、どちらを代表値としての“平均”としても差し障りはないと考えられる。あるいは、両者を直接比較する必要はないが、年度ごとの傾向を考察する、あるいは確認する意味で、本報告では両者を計算することとした。しかし、統計的な比較（有意差検定）では、標本平均を用いることが一般的であることから、統計検定では標本平均を用いている。

B 参考表

本報告では、岩見沢市契約管理課が作成し公開している、平成15年度～17年度の委託発注ならびに工事発注の基礎データをもとに分析を行った。これらを集計し、本報告のグラフの元となった集計結果を、それぞれ以下の表にまとめる。

(1) 平成15年度の集計結果

表 B - 1 - 1 委託発注における工種ごとの集計結果

工種	件数	予定価格	当初契約額	平均落札率	最終契約額
建築設計	8	53,951,100	39,729,375	73.6%	36,577,800
土木設計	30	156,639,000	103,705,350	66.2%	105,269,850
測量	34	100,525,950	63,649,950	63.3%	65,802,450
調査	10	32,457,500	28,791,000	88.7%	28,791,000
清掃	11	43,900,500	39,095,700	89.1%	39,095,700
計画策定	6	66,381,000	62,979,000	94.9%	62,979,000
施工監理	2	21,147,000	19,845,000	93.8%	19,845,000
その他	32	92,454,600	85,092,000	92.0%	84,577,500
委託発注全体	133	567,456,650	442,887,375	78.0%	442,938,300

表 B - 1 - 2 委託発注における最終契約額階級ごとの集計結果

最終契約額の階級	度数	市外	市内	予定価格合計	当初価格	平均落札率
100万円未満	27	5	22	23,164,050	18,363,450	79.3%
100-200万円	32	8	24	69,006,000	47,992,350	69.5%
200-300万円	21	8	13	71,244,500	52,400,250	73.5%
300-400万円	23	4	19	112,140,000	77,742,000	69.3%
400-500万円	14	5	9	81,301,500	60,527,250	74.4%
500-600万円	1	1		5,995,500	5,775,000	96.3%
600-700万円	4	4		35,721,000	29,149,575	81.6%
700-800万円	2		2	15,897,000	14,700,000	92.5%
800-900万円	1	1		8,862,000	8,505,000	96.0%
900-1,000万円	1	1		10,500,000	9,639,000	91.8%
1,000万円以上	7	6	1	133,625,100	118,093,500	88.4%
委託発注全体	133	43	90	567,456,650	442,887,375	78.0%

表 B - 1 - 3 委託発注における市内・市外業者ごとの集計結果

落札者住所区分	予定価格合計	当初契約額	平均落札率	最終契約額
市外	263,846,000	219,825,375	83.3%	216,852,300
市内	303,610,650	223,062,000	73.5%	226,086,000
委託発注全体	567,456,650	442,887,375	78.0%	442,938,300

表 B - 1 - 4 委託発注における市内・市外業者ごとの集計結果

契約方法	件数	予定価格	当初契約額	平均落札率	合計最終契約額
指名競争入札	125	532,419,200	409,156,125	76.8%	409,207,050
随契	7	30,732,450	29,426,250	95.7%	29,426,250
不落随契	1	4,305,000	4,305,000	100.0%	4,305,000
委託発注全体	133	567,456,650	442,887,375	78.0%	442,938,300

表 B - 1 - 5 委託発注における落札率階級ごとの集計結果

落札率	件数	落札率	件数
40-50%	6	70-80%	19
50-60%	20	80-90%	16
60-70%	23	90-100%	49
		総計	133

表 B - 1 - 6 工事発注における工種ごとの集計結果

工種	件数	予定価格	当初契約額	平均落札率	最終契約額合計	件数構成比
一般土木	146	2,323,797,000	1,992,229,575	85.7%	2,055,821,250	35.2%
舗装	74	520,170,000	417,092,550	80.2%	428,778,000	17.8%
鋼橋 P S	1	7,350,000	6,919,500	94.1%	8,179,500	0.2%
建築	54	1,003,926,000	900,814,617	89.7%	902,401,167	13.0%
電気設備	39	361,714,500	319,644,150	88.4%	321,271,650	9.4%
管	69	629,223,000	562,033,500	89.3%	581,264,250	16.6%
機械器具	4	377,202,000	336,118,167	89.1%	336,118,167	1.0%
造園	22	269,283,000	230,695,500	85.7%	233,677,500	5.3%
塗装	5	25,662,000	21,663,600	84.4%	22,860,600	1.2%
道路標識	1	1,438,500	1,417,500	98.5%	1,417,500	0.2%
工事発注全体	415	5,519,766,000	4,788,628,659	86.8%	4,891,789,584	

表 B - 1 - 7 工事発注における市内・市外業者ごとの集計結果

落札者住所区分	件数	予定価格	当初契約額	平均落札率	最終契約額
市外	71	1,548,571,500	1,352,880,417	87.4%	1,367,117,367
市内	344	3,971,194,500	3,435,748,242	86.5%	3,524,672,217
工事発注全体	415	5,519,766,000	4,788,628,659	86.8%	4,891,789,584

表 B - 1 - 8 工事発注における最終契約額階級ごとの集計結果

最終契約額	市外	市内	件数	予定価格合計	当初契約額合計	平均落札率
500万円未満	35	158	193	635,187,000	537,114,084	84.6%
500-1,000万円	20	87	107	865,704,000	742,479,675	85.8%
1,000-1,500万円	5	33	38	540,613,500	458,683,050	84.8%
1,500-2,000万円	2	23	25	479,031,000	406,105,350	84.8%
2,000-2,500万円	1	14	15	380,404,500	320,446,350	84.2%
2,500-3,000万円	1	8	9	279,373,500	244,293,000	87.4%
3,000-3,500万円	1	5	6	217,612,500	179,445,000	82.5%
3,500-4,000万円		4	4	171,465,000	149,667,000	87.3%
4,000-4,500万円	1	2	3	137,865,000	121,275,000	88.0%
5,000万-1億円	3	9	12	913,395,000	822,436,650	90.0%
1億円以上	2	1	3	899,115,000	806,683,500	89.7%
工事発注全体	71	344	415	5,519,766,000	4,788,628,659	86.8%

表 B - 1 - 8 工事発注における最終契約額階級ごとの集計結果

契約方法	件数	予定価格	当初契約額	平均落札率	最終契約額合計
公募型指名競争入札	4	1,006,215,000	896,248,500	89.1%	896,248,500
指名競争入札	365	4,139,184,000	3,577,575,942	86.4%	3,673,373,217
指名競争入札(電子入札)	27	157,069,500	135,145,500	86.0%	139,650,000
随契	2	4,200,000	3,884,517	92.5%	4,412,667
地域限定型一般競争入札(電子入札)	16	212,782,500	175,464,450	82.5%	177,795,450
不落随契	1	315,000	309,750	98.3%	309,750
工事発注全体	415	5,519,766,000	4,788,628,659	86.8%	4,891,789,584

表 B - 1 - 8 工事発注における落札率階級ごとの件数集計結果

落札率	件数	落札率	件数
70-75%	17	85-90%	73
75-80%	78	90-95%	117
80-85%	99	95-100%	31
85-90%	73	総計	415

(2) 平成 16 年度の集計結果

表 B - 2 - 1 委託発注における工種ごとの集計結果

工種	件数	予定価格	当初価格	平均落札率	最終契約額
建築設計	14	143,587,500	116,566,800	81.2%	116,517,450
土木設計	16	128,152,500	96,678,750	75.4%	104,318,550
測量	21	59,318,700	46,911,900	79.1%	48,056,400
調査	9	29,190,000	26,428,500	90.5%	26,628,000
清掃	11	47,040,000	42,067,200	89.4%	42,067,200
計画策定	3	15,781,500	14,941,500	94.7%	15,414,000
施工監理	1	23,415,000	22,365,000	95.5%	22,365,000
その他	25	66,612,000	57,327,900	86.1%	59,706,150
委託発注全体	100	513,097,200	423,287,550	82.5%	435,072,750

表 B - 2 - 2 委託発注における最終契約額階級ごとの集計結果

最終契約額	市外	市内	総計	予定価格	当初価格	平均落札率
100 万円未満	2	13	15	13,184,850	10,849,650	82.3%
100-200 万円	6	14	20	35,759,850	28,713,300	80.3%
200-300 万円	2	13	15	46,662,000	37,422,000	80.2%
300-400 万円	6	11	17	70,612,500	58,562,700	82.9%
400-500 万円	6	6	12	62,076,000	53,229,750	85.7%
500-600 万円	1	1	2	15,519,000	10,967,250	70.7%
600-700 万円	4	1	5	41,034,000	30,574,950	74.5%
700-800 万円	1	1	2	16,170,000	11,865,000	73.4%
800-900 万円	0	2	2	18,154,500	16,537,500	91.1%
900-1,000 万円	3	1	4	37,527,000	31,998,750	85.3%
1,000 万円以上	6	0	6	156,397,500	132,566,700	84.8%
委託発注全体	37	63	100	513,097,200	423,287,550	82.5%

表 B - 2 - 3 委託発注における市内・市外業者ごとの集計結果

落札者住所区分	予定価格	当初契約額	平均落札率	最終契約額合計
市外	310,905,000	255,109,050	82.1%	262,972,500
市内	202,192,200	168,178,500	83.2%	172,100,250
委託発注全体	513,097,200	423,287,550	82.5%	435,072,750

表 B - 2 - 4 委託発注における契約方法ごとの集計結果

契約方法	件数	予定価格	当初契約額	平均落札率	最終契約額合計
指名競争入札	95	454,829,550	365,852,550	80.4%	377,165,250
随契	5	58,267,650	57,435,000	98.6%	57,907,500
委託発注全体	100	513,097,200	423,287,550	82.5%	435,072,750

表 B - 2 - 5 委託発注における落札率階級ごとの件数集計結果

落札率	件数	落札率	件数
50-60%	3	80-90%	27
60-70%	9	90-100%	33
70-80%	28	総計	100

表 B - 2 - 6 工事発注における工種ごとの集計結果

工種	工事件数	予定価格	当初契約額	平均落札率	最終契約額
一般土木	136	3,045,640,500	2,794,335,600	91.7%	2,847,292,350
舗装	42	330,477,000	255,689,700	77.4%	260,869,350
建築	41	2,245,414,500	2,073,704,850	92.4%	2,075,720,850
電気設備	24	586,036,500	543,817,050	92.8%	547,208,550
管	60	1,000,235,250	950,850,600	95.1%	956,257,050
機械器具	1	794,498,250	752,430,000	94.7%	752,430,000
造園	10	231,945,000	199,080,000	85.8%	205,632,000
塗装	3	24,916,500	21,109,200	84.7%	22,673,700
工事発注全体	317	8,259,163,500	7,591,017,000	91.9%	7,668,083,850

表 B - 2 - 7 工事発注における市内・市外業者ごとの集計結果

落札者住所区分	工事件数	予定価格	当初契約額	平均落札率	最終契約額
市外	47	2,926,754,250	2,702,457,450	92.3%	2,709,637,350
市内	270	5,332,409,250	4,888,559,550	91.7%	4,958,446,500
工事発注全体	317	8,259,163,500	7,591,017,000	91.9%	7,668,083,850

表 B - 2 - 8 工事発注における最終契約額階級ごとの集計結果

最終契約額	市外	市内	件数	予定価格合計	当初契約額合計	平均落札率
500万円未満	25	114	139	464,063,250	397,365,150	85.6%
500-1,000万円	8	48	56	464,394,000	391,020,000	84.2%
1,000-2,000万円	10	47	57	915,589,500	811,826,400	88.7%
2,000-3,000万円	1	29	30	789,547,500	717,165,750	90.8%
3,000-4,000万円		8	8	292,603,500	268,884,000	91.9%
4,000-5,000万円		7	7	351,907,500	325,584,000	92.5%
5,000-6,000万円		1	1	62,790,000	58,394,700	93.0%
6,000-7,000万円		2	2	145,110,000	136,395,000	94.0%
7,000-8,000万円		2	2	156,240,000	145,603,500	93.2%
8,000-9,000万円		1	1	84,630,000	80,010,000	94.5%
9,000-1億円		1	1	97,650,000	90,720,000	92.9%
1億円以上	3	10	13	4,434,638,250	4,168,048,500	94.0%
工事発注全体	47	270	317	8,259,163,500	7,591,017,000	91.9%

表 B - 2 - 8 工事発注における契約方法ごとの集計結果

契約方法	件数	予定価格	当初契約額	平均落札率	最終契約額合計
公募型指名競争入札	2	1,345,748,250	1,281,630,000	95.2%	1,281,630,000
指名競争入札	221	5,562,894,750	5,062,421,175	91.0%	5,130,663,825
指名競争入札（電子入札）	80	529,357,500	459,539,325	86.8%	465,812,025
随契	6	24,759,000	24,045,000	97.1%	26,281,500
制限付一般競争入札	4	749,490,000	725,445,000	96.8%	725,445,000
地域限定型一般競争入札（電子入札）	4	46,914,000	37,936,500	80.9%	38,251,500
工事発注全体	317	8,259,163,500	7,591,017,000	91.9%	7,668,083,850

表 B - 2 - 9 工事発注における落札率階級ごとの件数集計結果

落札率	件数	落札率	件数
65-70%	1	85-90%	43
70-75%	19	90-95%	110
75-80%	48	95-100%	48
80-85%	48	総計	317

(3) 平成 17 年度の集計結果

表 B - 3 - 1 委託発注における工種ごとの集計結果

工種	件数	予定価格	当初価格	平均落札率	最終契約額
建築設計	3	41,443,500	34,364,400	82.9%	34,364,400
土木設計	34	177,796,500	149,836,050	84.3%	152,261,550
測量	22	48,589,800	44,610,300	91.8%	45,124,800
調査	5	29,683,500	22,737,750	76.6%	28,775,250
清掃	13	47,187,000	42,918,750	91.0%	45,885,000
計画策定	1	6,447,000	6,300,000	97.7%	6,300,000
その他	28	79,015,650	70,941,150	89.8%	74,621,400
委託発注全体	106	430,162,950	371,708,400	86.4%	387,332,400

表 B - 3 - 2 委託発注における最終契約金額ごとの集計結果

最終契約額	市外	市内	総計	予定価格	当初価格	平均落札率
100 万円未満	5	14	19	15,937,950	13,830,600	86.8%
100-200 万円	4	14	18	31,038,000	27,250,650	87.8%
200-300 万円	5	17	22	61,761,000	52,484,250	85.0%
300-400 万円	6	5	11	43,386,000	35,277,900	81.3%
400-500 万円	3	11	14	63,882,000	58,212,000	91.1%
500-600 万円	1	5	6	36,844,500	32,602,500	88.5%
600-700 万円	2	1	3	20,685,000	19,425,000	93.9%
700-800 万円	1	1	2	18,679,500	14,973,000	80.2%
800-900 万円	1	1	2	16,516,500	15,330,000	92.8%
900-1,000 万円	1	2	3	28,822,500	26,890,500	93.3%
1,000 万円以上	5	1	6	92,610,000	75,432,000	81.5%
委託発注全体	34	72	106	430,162,950	371,708,400	86.4%

表 B - 3 - 3 委託発注における市内・市外業者ごとの集計結果

落札者住所区分	予定価格	当初契約額	平均落札率	最終契約額合計
市外	196,658,700	159,715,500	81.2%	167,874,000
市内	233,504,250	211,992,900	90.8%	219,458,400
委託発注全体	430,162,950	371,708,400	86.4%	387,332,400

表 B - 3 - 4 委託発注における市内・市外業者ごとの集計結果

契約方法	件数	予定価格	当初契約額	平均落札率	最終契約額合計
指名競争入札	105	423,715,950	365,408,400	86.2%	381,032,400
随契	1	6,447,000	6,300,000	97.7%	6,300,000
委託発注全体	106	430,162,950	371,708,400	86.4%	387,332,400

表 B - 3 - 6 委託発注における落札率階級ごとの件数集計結果

落札率	件数	落札率	件数
50-60%		180-90%	19
60-70%		290-100%	63
70-80%	21	総計	106

表 B - 3 - 7 工事発注における工種ごとの集計結果

工種	工事件数	予定価格	当初契約額	平均落札率	最終契約額
一般土木	116	2,282,458,500	2,082,722,250	91.2%	2,179,423,050
舗装	39	411,810,000	337,921,500	82.1%	356,128,500
建築	36	1,399,618,500	1,341,439,294	95.8%	1,351,668,394
電気設備	23	390,726,000	359,637,600	92.0%	359,186,100
管	68	611,488,500	551,715,150	90.2%	564,503,100
造園	21	355,152,000	323,851,500	91.2%	328,303,500
塗装	4	30,408,000	26,670,000	87.7%	28,066,500
工事発注全体	307	5,481,661,500	5,023,957,294	91.7%	5,167,279,144

表 B - 3 - 8 工事発注における市内・市外業者ごとの集計結果

落札者住所区分	工事件数	予定価格	当初契約額	平均落札率	最終契約額
市外	49	581,343,000	497,613,900	85.6%	514,980,900
市内	258	4,900,318,500	4,526,343,394	92.4%	4,652,298,244
工事発注全体	307	5,481,661,500	5,023,957,294	91.7%	5,167,279,144

表 B - 3 - 9 工事発注における最終契約額階級ごとの集計結果

最終契約額	市外	市内	件数	予定価格合計	当初契約額合計	平均落札率
500万円未満	11	101	112	381,633,000	336,354,094	88.1%
500-1,000万円	16	45	61	493,510,500	430,239,600	87.2%
1,000-2,000万円	17	49	66	1,026,858,000	919,025,100	89.5%
2,000-3,000万円	5	37	42	1,087,170,000	975,954,000	89.8%
3,000-4,000万円		9	9	324,555,000	297,013,500	91.5%
4,000-5,000万円		4	4	195,720,000	180,831,000	92.4%
5,000-6,000万円		3	3	172,620,000	161,385,000	93.5%
6,000-7,000万円		3	3	212,940,000	196,035,000	92.1%
7,000-8,000万円		2	2	157,290,000	146,685,000	93.3%
8,000-9,000万円		1	1	85,365,000	82,110,000	96.2%
9,000-1億円		1	1	95,550,000	90,300,000	94.5%
1億円以上		3	3	1,248,450,000	1,208,025,000	96.8%
工事発注全体	49	258	307	5,481,661,500	5,023,957,294	91.7%

表 B - 3 - 10 工事発注における契約方法ごとの集計結果

契約方法	件数	予定価格	当初契約額	平均落札率	最終契約額合計
意向確認型指名競争入札	1	140,700,000	135,975,000	96.6%	135,975,000
公募型指名競争入札	1	273,000,000	255,150,000	93.5%	257,397,000
指名競争入札	226	3,248,857,500	2,950,408,894	90.8%	3,062,335,744
指名競争入札（電子入札）	68	710,871,000	625,325,400	88.0%	649,097,400
随契	3	21,378,000	20,328,000	95.1%	20,328,000
制限付一般競争入札	1	834,750,000	816,900,000	97.9%	816,900,000
地域限定型一般競争入札（電子入札）	7	252,105,000	219,870,000	87.2%	225,246,000
工事発注全体	307	5,481,661,500	5,023,957,294	91.7%	5,167,279,144

表 B - 3 - 11 工事発注における落札率階級ごとの件数集計結果

落札率	件数	落札率	件数
65-70%	2	85-90%	48
70-75%	11	90-95%	156
75-80%	25	95-100%	31
80-85%	34	総計	307

以上